

11. 田原坂公園北半部調査地

a. 調査地の位置と環境（第3図・第150図）

田原坂公園の調査は、「西南役戦没者慰霊之碑」を境に北半部と南半部に分けて実施した。北半部は本道三ノ坂と谷を隔てた土地改変があまりなされていない明治13年（1880）年建立の崇烈碑がある一帯で、南半部は田原坂西南戦争資料館周辺である。

北半部調査地は東西161m、南北73m、面積7200㎡。標高88m～107mの西向き下降斜面とその東の崇烈碑が建つ小高地で構成され、周囲をよく見渡すことができる場所である。ここからは西方の玉東町二俣台地を望むことができ、東方では豊岡台地東側への迂回も監視できる。また、北の中谷集落から登る北平古道や薩摩軍主要陣地だった熊野座神社を通る山鹿熊本間の脇往還と、田原坂本道（三池往還、豊前街道高瀬道）が合流分岐する重要地点でもある。古写真に写る薩摩軍陣地の松下家（通称弾痕の家）のあった場所の近くで、周囲には北西450mに本道二ノ坂調査地や谷村計介碑調査地、直接視認はできないが北方350mに熊野座神社調査地などがあり、田原坂本道三ノ坂激戦地の一角をなす。この小高地を中心とした場所には「天險を補ふに人工を以て」する陣地が存在した可能性が高く、本道守備の要地である。

小高地は西と南西にのびる二つの小尾根筋の分岐点にあり、地の利に恵まれた所である。北西と南西からは谷が入り、これ以外にも起伏が大きく出入りの多い樹枝状地形の土地で、北や南の谷間は下までよく見える。西側にのびる尾根は400mほど続き、南西側尾根は300mほど続いて低地に至る。南西尾根の中位緩斜面には塹壕があり、多くの銃弾と銃剣などが採集されたい。近くの墓石には弾痕もある。

本調査地東側は駐車場になっており、弾が出たなどの話は少ない。ただ、近くの大楠木の金属探知機調査では数カ所で反応があり、太枝を剪定し薪にして燃やした跡から溶けた鉛が出てきたとか、砲弾の破裂で中央の幹が折れたなどの話は残っている。



調査地全景（南より）奥に二俣台地を望む

付近一帯は古写真にもあるように昔は松林だったらしいが、現在ではほとんど残っていない。また、公園造成以前は付近には人の背丈を優に超える大岩が点々とあり、樹木もまばらな荒地で草地に大小の岩も顔を出していたらしい。文献記録に「樹石ニ隠蔽シ」とあるように、両軍ともあちこちにある大小の岩石や樹木を利用して戦ったのかもしれない。なお、本道三ノ坂上部はもとは急坂で、のちに車が通れるようになだらかに削ったとのことであった。

b. 現地調査の成果（第 150 図～第 162 図）

本調査地は事前踏査の際の聞き取り調査で、公営公園内であり土地は大きな改変はなされていないとご教示いただいていたので調査対象とした。しかしながら、公園として四季折々に多くの人々が集う場所であり、遺物は多くがすでに拾われゴミも多いのではないかと危惧を抱きつつ調査を開始した。しかし、予想に反して多種の遺構や遺物も確認され、保存状況もよく、大きな成果を上げることができた。

現地調査地は遺構確認のためのトレンチ調査、金属探知機による遺物分布調査と地表面の観察および遺物測点測量、地形測量を行った。これらの調査により明確な遺構と遺物が調査地全体に分布することが確認でき、田原坂の戦い後のことも併せて知ることができた。

(1) 遺構の状況

旧地形復元調査（第 151 図・第 152 図）

崇烈碑の場所は玉垣周囲に丸石で囲まれた 20 m 四方ほどの平坦な区画があり、段差や傾斜変換線もあり南北 30 m、東西 60 m ほどの範囲で建碑造成工事が行われたことが推測された。また、西側斜面には平坦地が 3 段観察され、全体に自然地形が改変されている様相があった。さらには、これらの工事で戦時の陣地や塹壕などが壊されている可能性も考えられたので、トレンチ調査で旧地形や遺構を確認した。

調査は碑の周囲に 1 T、8 T、10 T の 3 カ所のトレンチを掘り下げた。1 T ではトレンチ上層に建碑時の黄褐色盛土が最大 72 cm あり、下層から小銃弾、松根が出土して松根確認面が当時の地表面と考えられた。碑の南側の 10 T では表土バラス直下は茶褐色粘質地山土で、60 cm 以上は削平されていることが判明し、現状では遺構は確認できなかった。これからすると、旧地形は馬背状地形の小高い場所で、南が少し高く北と西の谷に向かってなだらかに下降する緩傾斜地だったようだ。おおむね碑の北側には黄褐色造成盛土下に旧地形が残るものの、南側は削平され陣地などの遺構はわずかに残存する程度と考えられる。

1号溝状遺構、2号溝状遺構（第 153 図）

1号溝状遺構は 2 T、7 T、9 T、11 T、16 T、18 T で確認した。尾根上を東西方向に比較的直線的にのび、推定長 33 m 以上、幅 0.85 m～1.43 m、深さ 16 cm～34 cm、断面は浅く丸い船底状、覆土は暗褐色土～暗茶褐色土の単層で、暗く締めりのない土層である。埋没後に崇烈碑造成盛土が上を覆っている。平面的には確認しにくく断面観察で確認した。溝幅は一定せず、壁や底は整形されずに凸凹がある。遺物は 2 T で四斤砲榴弾片 2 点 13 と 14、筈翼 2 点 11 と 12 が底面に食い込むように出土し、16 T ではスナイドル銃弾 89 が溝南壁から出土した。7 T ではスナイドル薬莢が出土したが溝覆土中ではない。

2号溝状遺構は 8 T で確認した。幅 1.2 m、深さ 55 cm ほどで東西方向に走り 1号溝状遺構と並行するようだが、延長上の 11 T では確認できず全長は不明。断面形は北側に足がかりのような段差がある。覆土は締めりのない茶褐色土、遺物は小銃弾と雷管が出土したが、いずれも覆土上位の造成盛土内である。

1号溝状遺構は深さに多少の浅深があるが、溝底は東が高く西に低いので旧地表に合わせた一定の深さだったことが推定され、造成工事で溝上部や胸壁部分が削平された底部のみの残存と考えられる。平面形状や遺物出土、埋没後に明治 13 年造成盛土が直上を覆っていることから、2号溝状遺構とともに塹壕遺構の可能性が高い。



調査前の状況 1 崇烈碑前面（東より）



1T 全景（東より）



調査前の状況 2 崇烈碑背後の平坦部（北より）



1T 石灰岩片出土状況



調査前の状況 3 調査区中央部（北より）



1T 松根出土状況（西より）



調査前の状況 4 調査区西側斜面（西より）



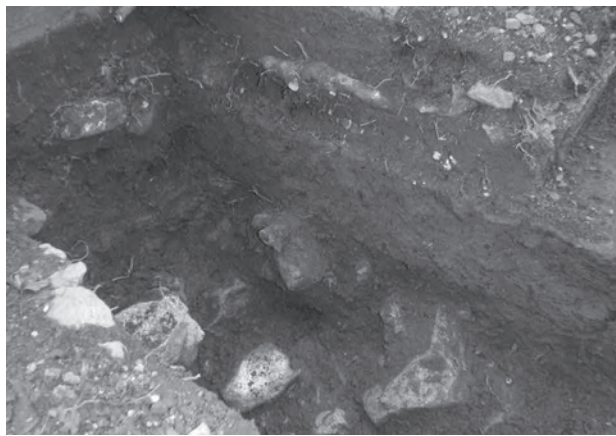
10T 全景（南より）



8T 全景 (北より)



7T 全景 (北より)



9T 南壁・1号溝状遺構断面 (北より)



11T 全景 (北より)



11T 東壁・1号溝状遺構 (西より)



11T 霰弾子出土状況



1号溝状遺構 2T、11T (東より)



2T 全景 (東より)



16T 東壁・1号溝状遺構断面 (北より)



2T・1号溝状遺構 四斤砲弾出土状況



16T スナイドル銃弾 89 出土状況



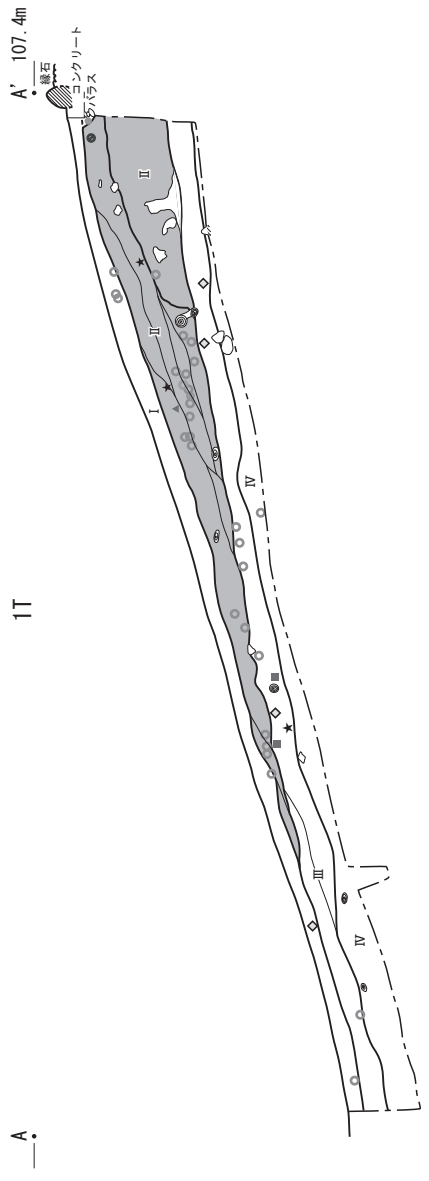
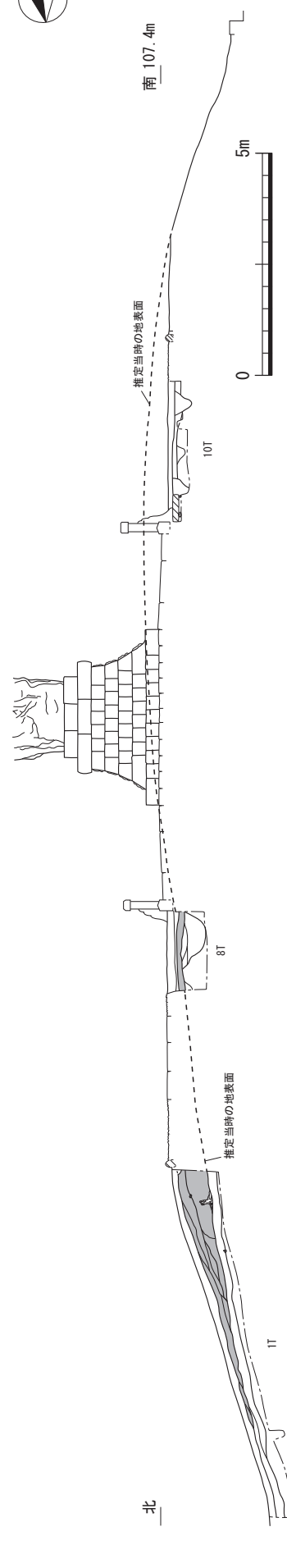
2T、14T～18T 全景 (南より)



調査地名	トレンチ名	幅	長さ	面積㎡
公園北半部	11T	0.40	1.80	33.84
	12T	4.80	6.90	3.78
	13T	0.90	4.20	0.88
	14T	1.60	2.80	4.48
	15T	1.60	2.50	4.14
	16T	0.90	5.70	5.13
	17T	1.00	6.60	6.60
	18T	0.40	1.50	0.60
	19T	0.80	7.80	6.24
	20T	0.80	6.20	4.96
	21T	1.00	1.00	1.00
計				167.62

調査地名	トレンチ名	幅	長さ	面積㎡
公園北半部	1T	1.00	8.00	8.00
	2T	1.00	20.60	20.60
	3T	1.00	24.90	24.90
	4T	1.00	6.60	6.60
	5T	1.00	11.20	11.20
	6T	1.00	14.20	14.20
	7T	1.00	0.40	3.06
	8T	0.60	1.80	1.08
	9T	0.30	0.40	2.37
	10T	0.90	4.40	3.96

第151図 公園北半部調査地 トレンチ配置図 (1/600)



土層説明

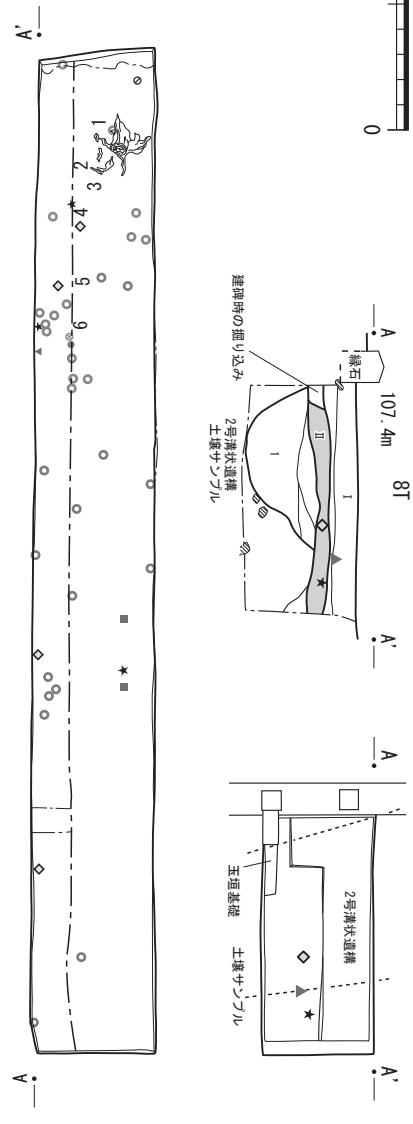
- I 表土
- II 造成盛土
- III 褐色土
- IV 茶褐色ローム土
- V 黄褐色軟質岩盤層

2号溝状遺構土層説明

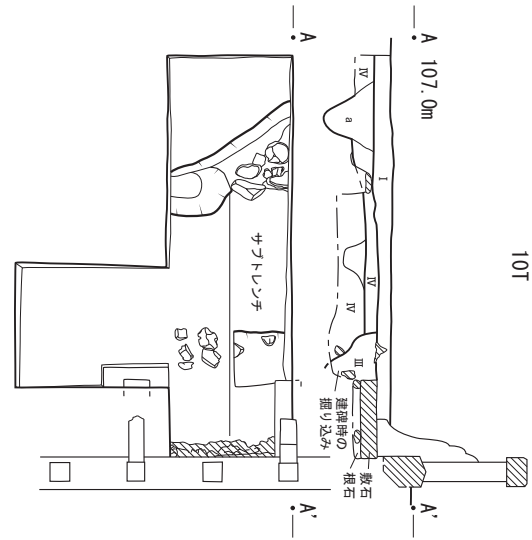
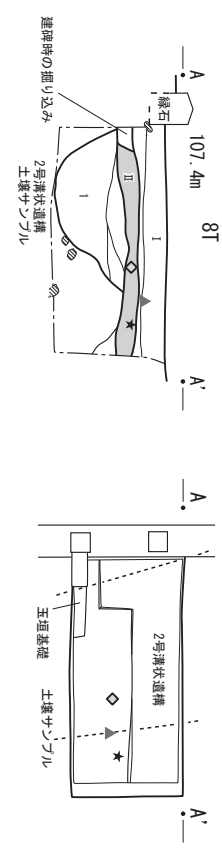
- 1 茶褐色土

- ▨ : 礫、石造物
- : II 造成盛土

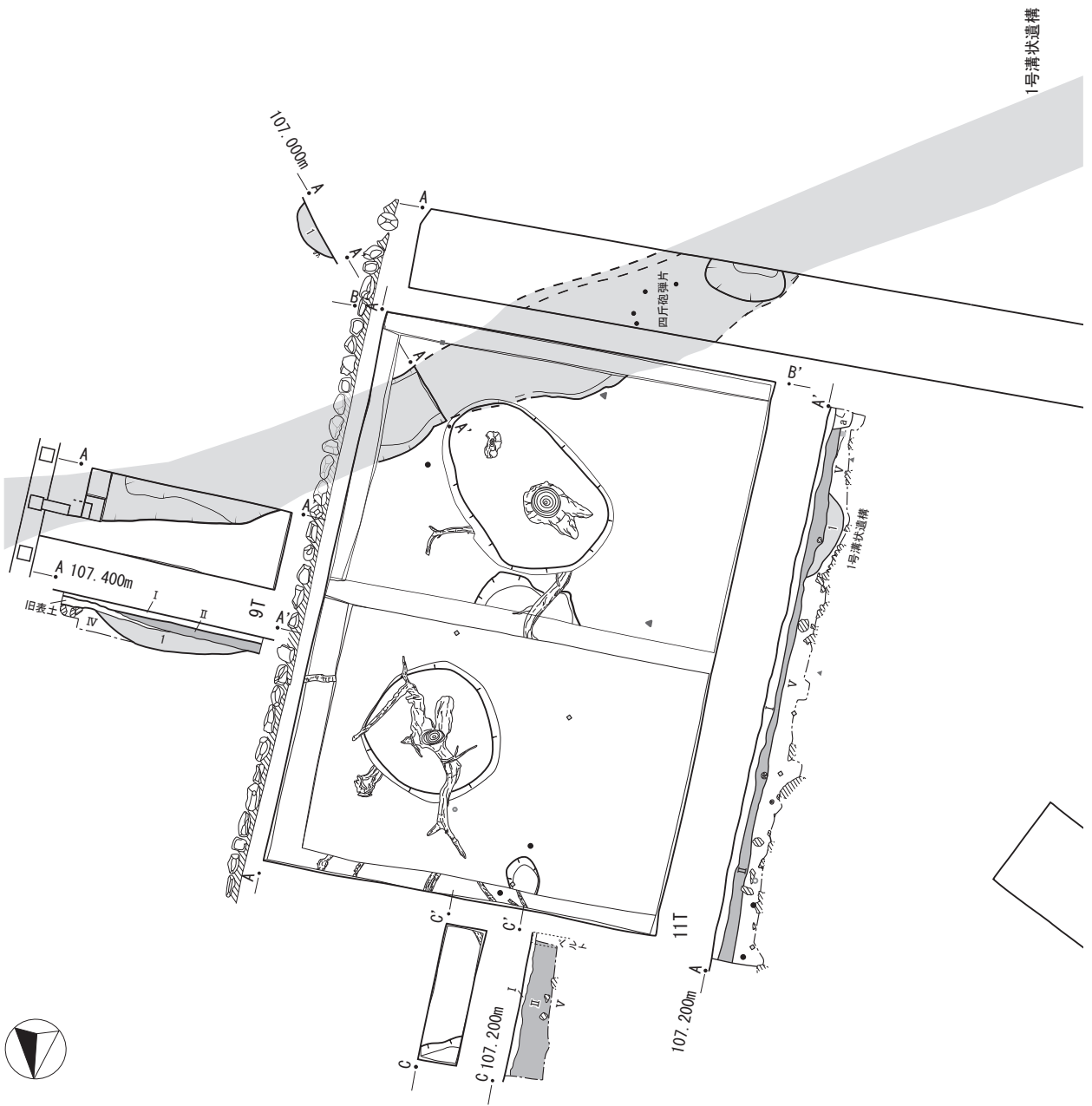
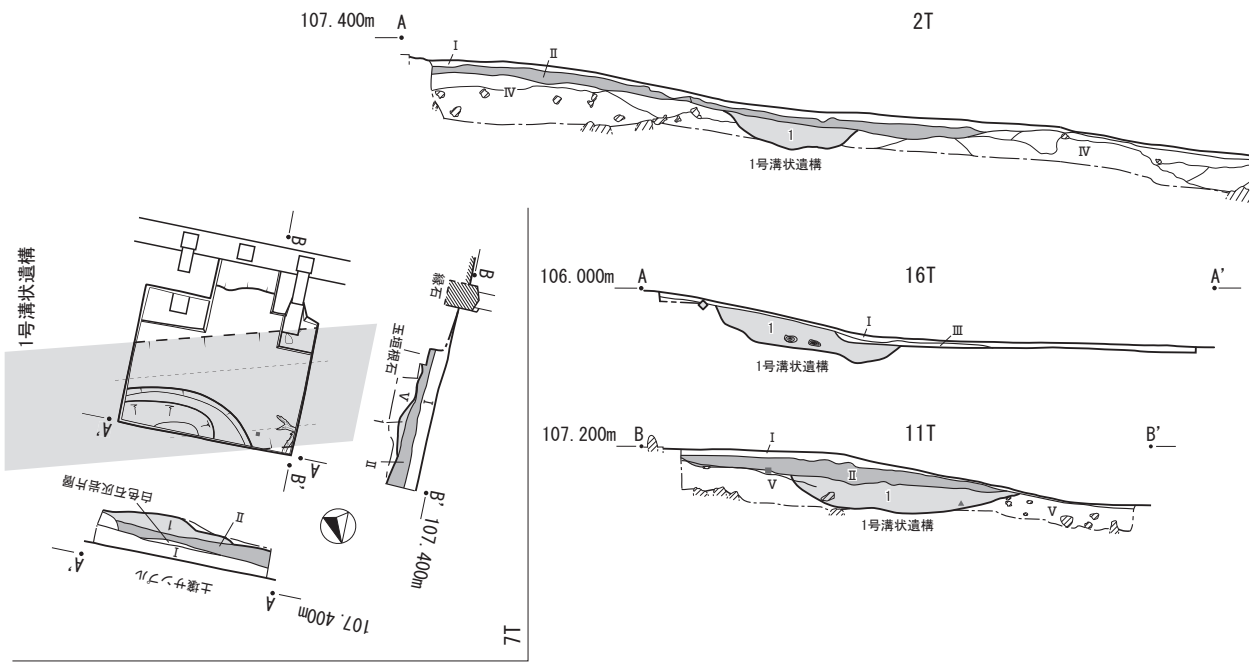
マーク凡例			
雷管 (W)	★	四斤砲弾片等 (BL)	●
未使用弾 (P)	△	鉄製品 (B)	▲
薬莖 (R)	■	古銭 (BR)	○
摩擦管 (O)	◎	土器・陶磁器・石 (GR)	◇
小銃弾 (Y)	◇	その他 (G)	⊗

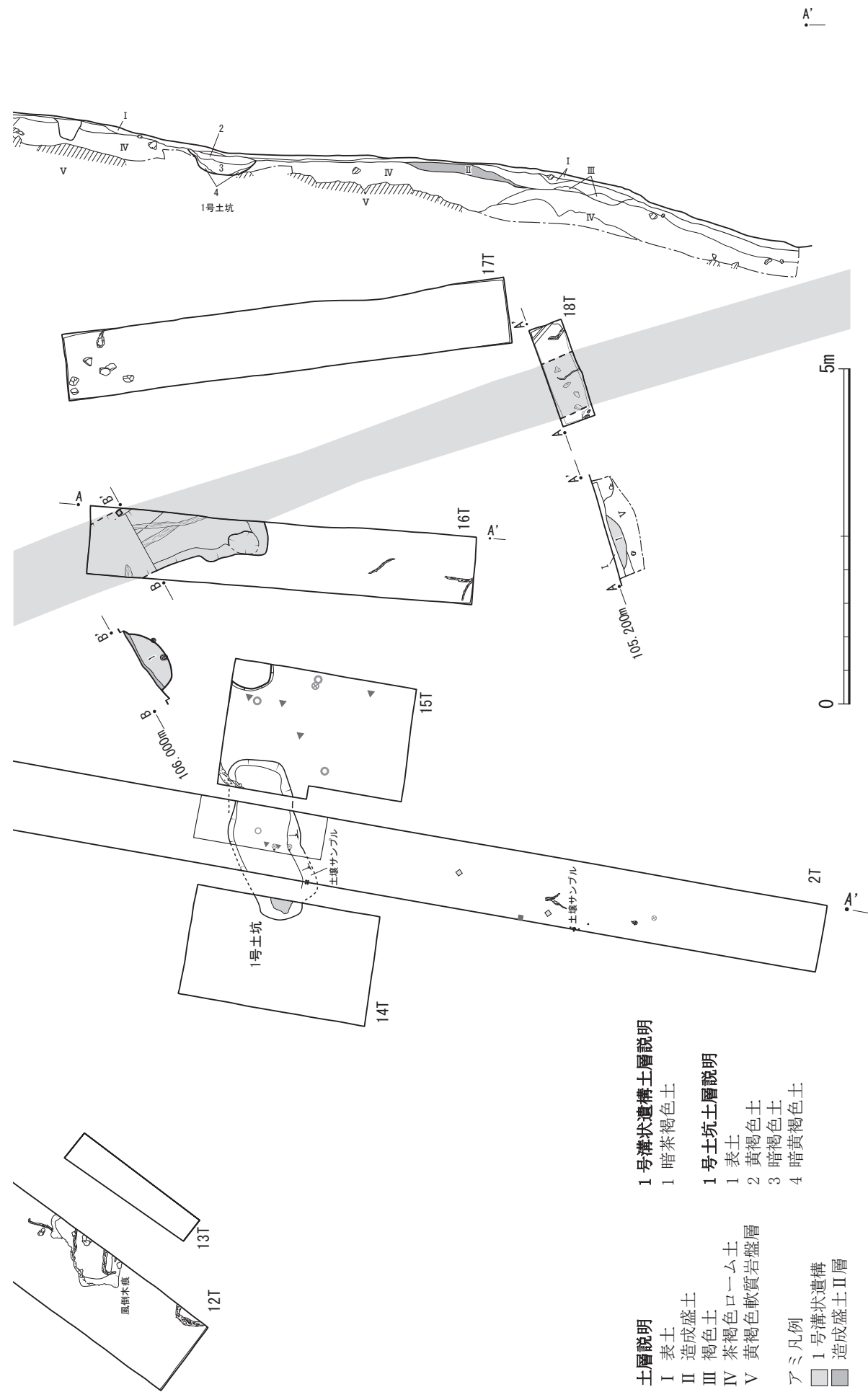


番号は盛土直下検出面での土壌サンプル採取箇所



第152図 1T、8T、10T旧地形推定復元図 (1 / 140、1 / 60)





第153図 1号溝状遺構 2T、7T、9T、11T、12T、13T、14T、15T、16T、17T、18T (縮尺任意)

1号溝状遺構土層説明

- 1 暗茶褐色土

1号土坑土層説明

- 1 表土
- 2 黄褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗黄褐色土

土層説明

- I 表土
- II 造成盛土
- III 褐色土
- IV 茶褐色ローム土
- V 黄褐色軟質岩盤層

- アミ凡例
- 1号溝状遺構
 - 造成盛土II層

なお、2 Tでは土壤中の植物珪酸体分析を実施し、1号土坑（1号仮埋葬墳）西4 mほどの小銃弾が出土した緩斜面で、イネ、ネザサ節型、ミヤコザサ節型、マダケ属型が検出された。表土層ではイネは検出されていないこともあり、古写真にみるような稲藁土嚢などで構築された陣地が存在したことを強く推定させる成果が提示された。（自然科学分析は第Ⅷ章で詳報する）

塹壕跡（第154図～第156図）

小高地から南西方向にのびる尾根上に浅く窪む溝状部分と2条の低い土手部分がある。現状で長さ34 m、幅5 m～7 m、深さは南側0.7 m～1 m、北側20 cm～30 cmほどである。立地や形状からみて塹壕跡と推定されたので、5 T、6 Tを掘り下げて確認することにした。なお、現六角堂方向の南西尾根にも塹壕があったとのことなので、地形的にみて本塹壕跡から西尾根と南西尾根にも塹壕が木の枝のように分岐し、さらに東の1号溝状遺構ともつながり、交通壕の役目も持っていたことが考えられる。

5 Tは幅1 m、長11.3 m。土手頂部間幅5.8 m、底面幅2.0 mうち平坦部幅1.4 m、深さは南側1.2 m、北側40 cm。断面は浅い逆台形を呈し、底面は平ら、北側には足がかりと思しき高さ16 cm、幅50 cmほどの低い段差が作出され、北に隣接して幅1 mほどの土手がある。地山土は黄褐色軟岩。覆土は厚20 cm、遺物は底面から出土し最下層の褐色土に薬莖などが多く含まれる。この土層中には地山軟岩ブロックが入り、底面角部には刃幅5 cmほどの工具痕もあるので、築陣時に元からあった溝状凹地の底面を掘削平坦に整形し、その土石で土嚢胸壁を作り、塹壕に改変したことが考えられる。地裂も確認した。

遺物はスナイドル薬莖やスペンサー薬莖、雷管などが塹壕北側で多く出土した。スナイドル薬莖は遺存状況が悪く上方からの移動が考えられる。雷管には完形品や未使用品もあり、つくりが脆弱なのでこれらはほとんど移動がないと考えてよいだろう。北の薬莖雷管の集中出土は、北側胸壁上にあったものが胸壁土嚢とともに落下したものか。ここからは北方二ノ坂や三ノ坂口がよく見える。

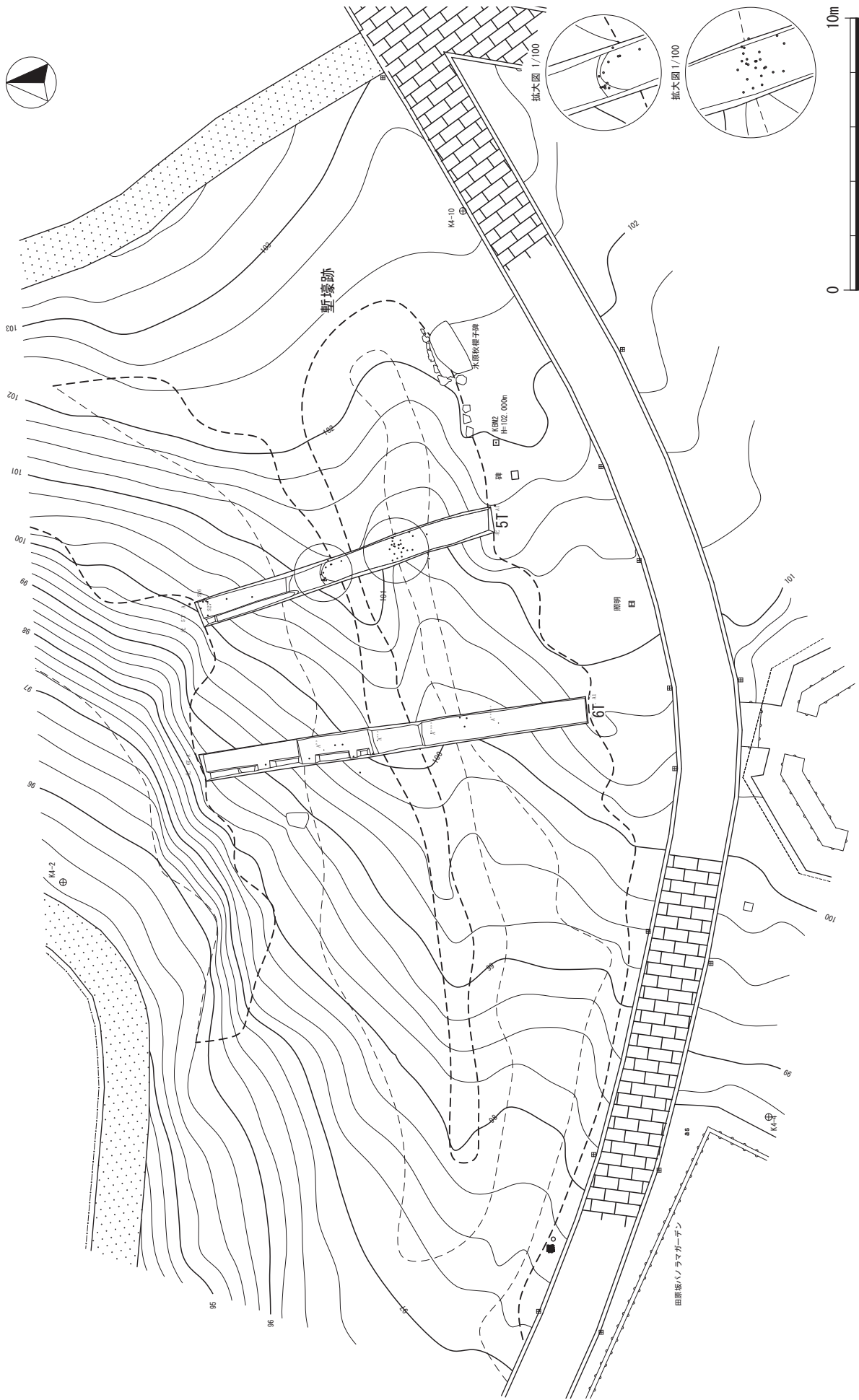
6 Tは幅1 m、長14.2 m。土手頂部間幅7.5 m、底面幅2.0 mうち平坦部幅1.0 m、深さは南側0.8 m、北側30 cm。断面は浅い不定形の逆台形を呈し、底面は凹凸があり工具痕は認められない。覆土は厚10 cmと薄く、茶褐色土主体。遺物は少量で底面から出土し、最下層の褐色土に含まれる。北に隣接して幅1 mほどの土手がある。

他に遺物は金属探知機調査で西端に未使用弾1点および反応点が塹壕跡底部に帯状に集中して、長さ8 m、幅2.5 mほどの中に69点を確認した。これらは遺構内なので取り上げしていない。5 T、6 Tで確認した遺物も一連のものであり、塹壕遺構であることをよく示している。

なお、5 Tでも植物珪酸体分析を実施し、塹壕内の小銃弾、薬莖出土地点でイネがかなり多量に検出された。同様に塹壕外の小銃弾、雷管出土地点でも密度は低いがいネが検出された。表土層を上回っていることから、2 Tと同様に稲藁土嚢で構築された胸壁陣地が存在したことが強く推定できる成果が得られた。（自然科学分析は第Ⅷ章で詳報）



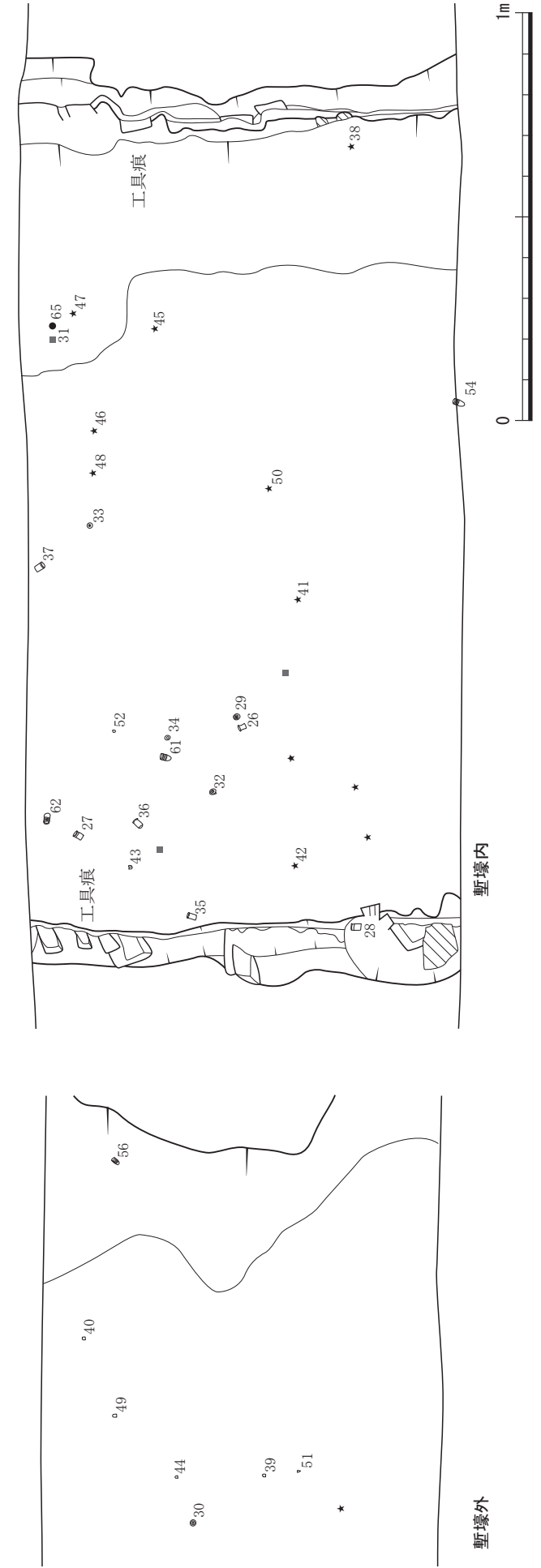
塹壕跡（調査前、東より）

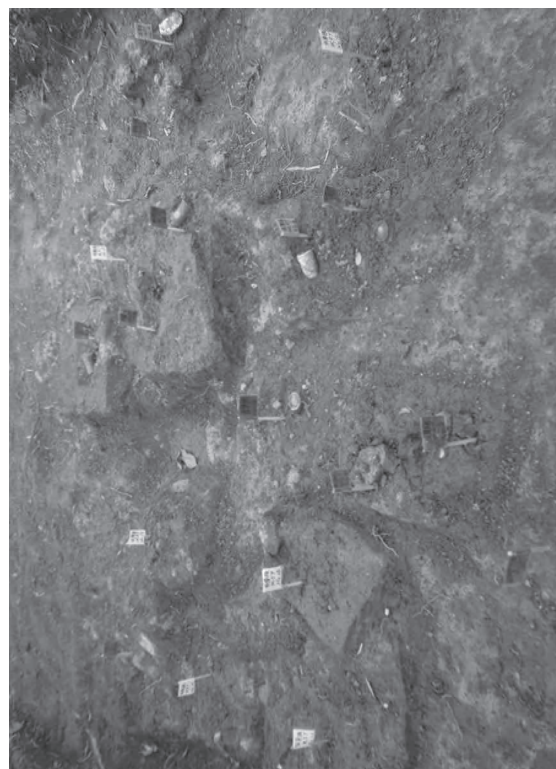
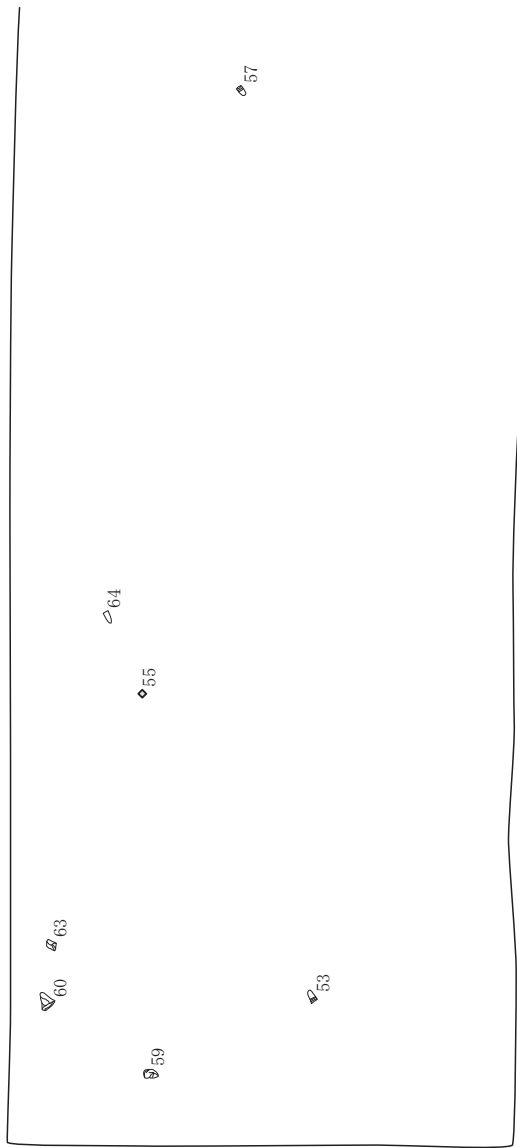


第154図 公園北半部調査地 聖塚跡、5T、6T (1/200)

5T

A' 102.000m



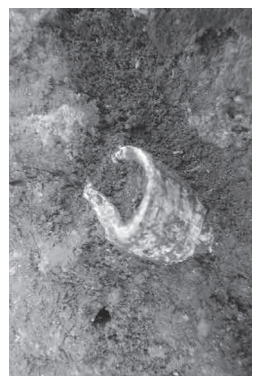


塹壕跡・5T遺物出土状況（南より）

※ 図中の数字は遺物図版番号

5T遺物出土位置一覧表

塹壕内	26 ~ 29, 31 ~ 38, 41 ~ 43, 45 ~ 48, 52, 61, 62, 65
塹壕外	30, 39, 40, 44, 49, 51, 56
北端	53, 55, 57, 59, 60, 63, 64
表土	54, 58



スナイドル銃弾 56



スナイドル銃弾 62



雷管 45



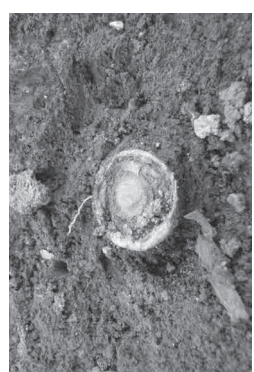
雷管 46



雷管 38



スパンサー葉莢 36



スナイドル葉莢 32

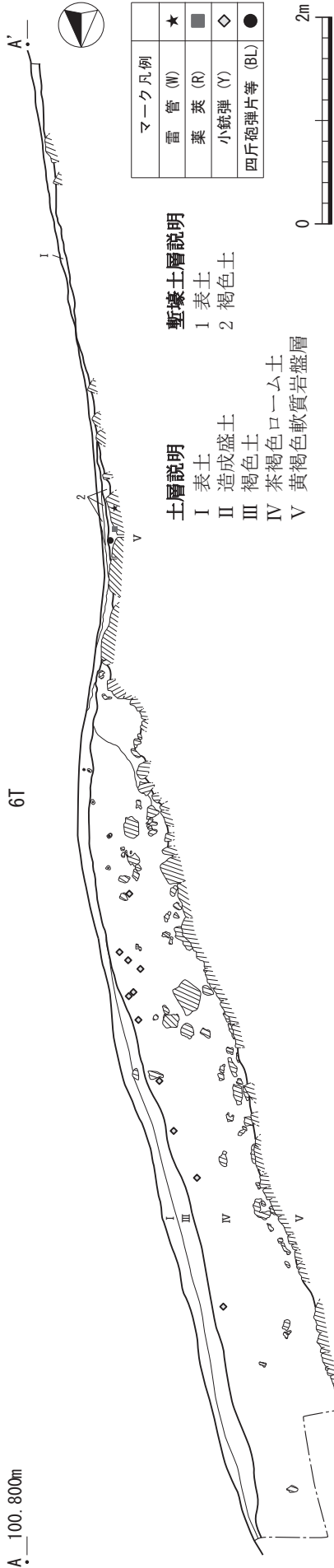


スパンサー葉莢 35

第155図 5T、塹壕遺物出土状況

A_100.800m

6T



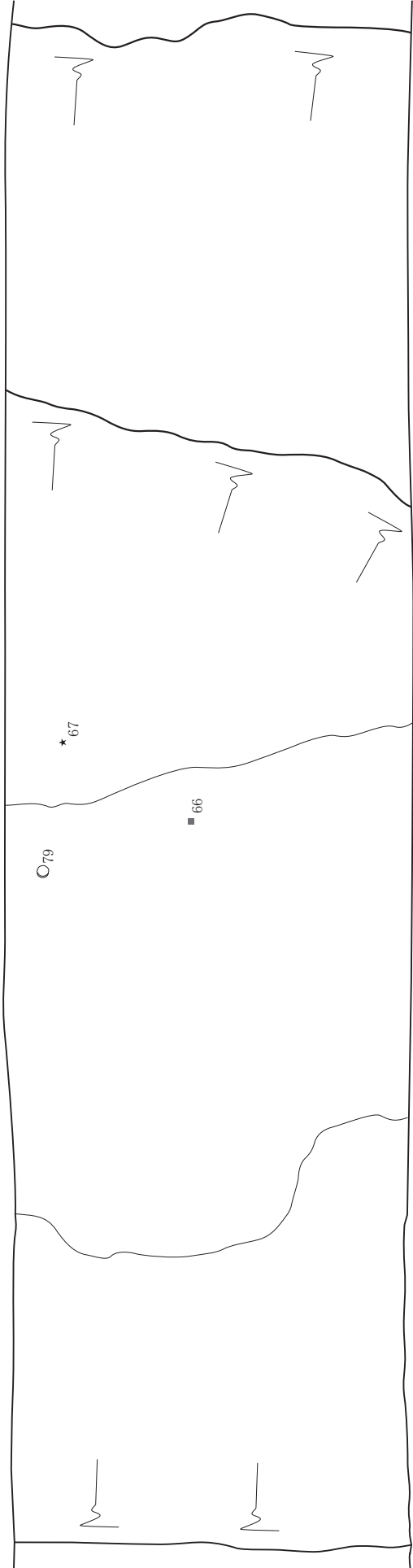
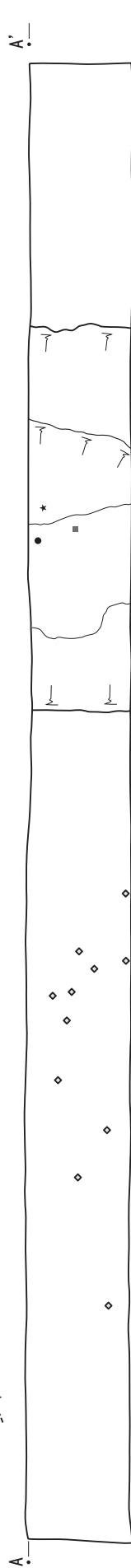
土層説明

- I 表土
- II 造成盛土
- III 褐色土
- IV 茶褐色ローム土
- V 黄褐色軟質岩盤層

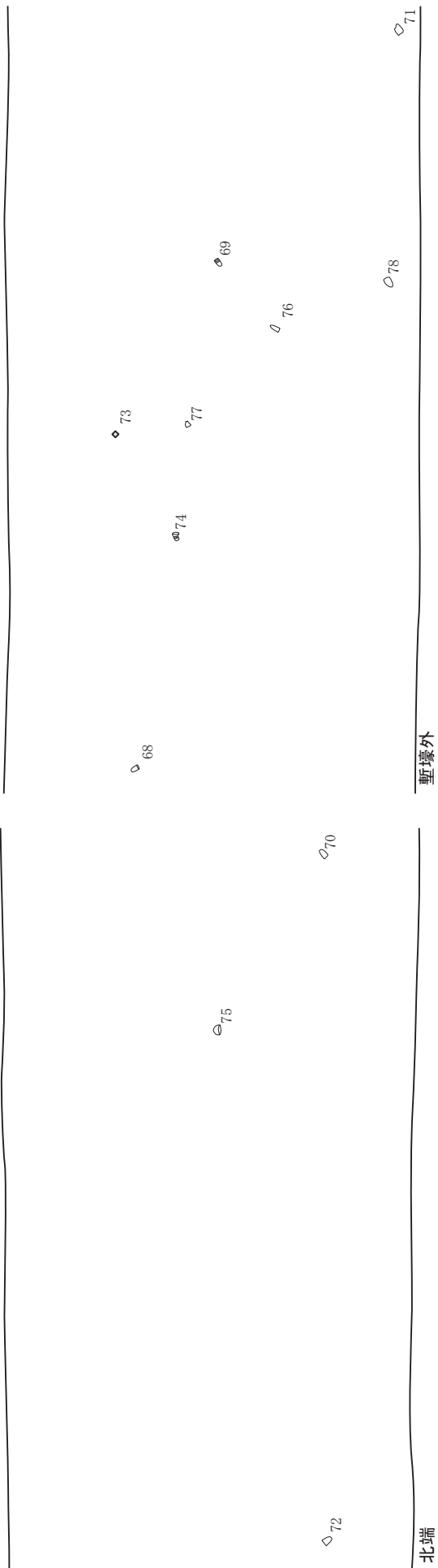
塹壕土層説明

- 1 表土
- 2 褐色土

マーク凡例	★	■	◇	●
雷管 (W)				
葉莢 (R)				
小銃弾 (Y)				
四斤砲弾片等 (BL)				



塹壕内



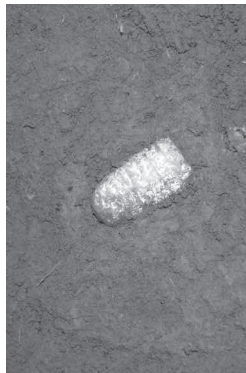
5T、6T 全景 (東より)



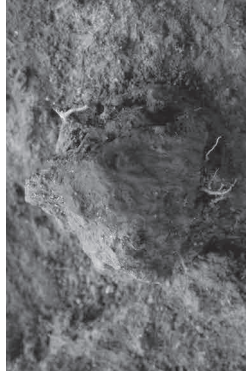
雷管 67



スナイドル銃弾 71



スナイドル銃弾 72



四斤砲弾 79

※ 図中の数字は遺物図版番号

6T 遺物出土位置一覧表

- 塹壕内 66, 67, 79
- 塹壕外 68, 69, 71, 73, 74, 76, 77, 78
- 北端 70, 72, 75

第156図 6T、塹壕 遺物出土状況

砲弾片着弾跡（第 157 図上）

砲弾片着弾跡は崇烈碑から西に 42 m ほど下った 21 T で確認した。自然的な様相の不定形の落ち込みで、底面は凹凸があり長さ 64 cm、幅 55 cm、深さ 15 cm である。四斤砲弾片は西から東に幅 9 ～ 16 cm、長さ 52 cm の溝状に土を抉っており、西方から飛来したと考えられる。砲弾片背後の土層は地山土類似土層で、突き当りに圧縮されたような状態であった。覆土は地山土と同質のやや締まりのない土で、衝撃による破砕土とみられる。地山土は固く締まる淡黄褐色軟岩であり、非常に強い力で抉られたことがわかる。四斤砲榴弾の弾頭部片で、すぐ近くに着弾破裂し飛び散った破片のうち的一片と思われる。

1 号土坑（第 157 図下）

1 号土坑ははじめ 2 T で確認したが、全容が不明だったので 14 T、15 T を拡張した。長 2.43 m、幅 1.03 m、深 20 ～ 47 cm の不整長方形で、地山の岩礫のため壁や底面には凸凹がある。壁は直立部分と緩部があり、底面も平らと丸い部分があり、全体的にみて応急的な造作である。覆土は暗褐色～黄褐色のやわらかい土層で、分層すると中央が窪み特に中位は締まりがなく遺物を含む。北端上層に炭化物範囲があったが詳細は不明。遺物は金釦とガラス釦、鉄製品などだが、人骨出土はない。本坑でも覆土の植物珪酸体分析を実施し、金釦脇でイネの密度が高く検出され、ガラス釦脇では低い値だが表土層を上回っていた。

遺物は人が身に着ける衣類にかかわるものであり、規模形状や覆土中位が締まりのない土層であること、土壌分析の結果からからみて、本坑は仮埋葬墳の可能性が高い。出土した釦は改葬の際の取り残しで、深さが墓壇にしては浅いのは崇烈碑建設などの造成工事で上部が削平されたためと思われる。本来は深さは 1 m 以上あり、平面規模からすると複数人が藎などを被せられて埋葬された状況が推測される。

土取場跡（第 158 図）

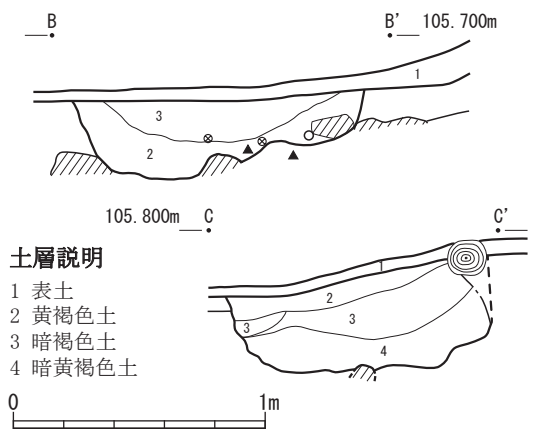
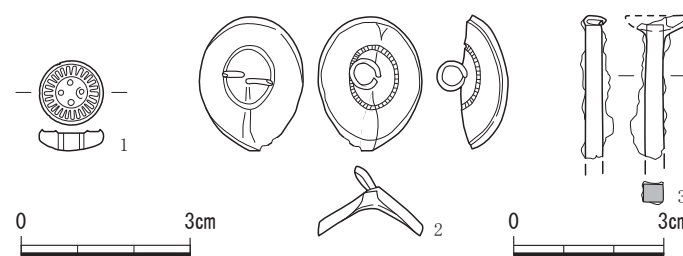
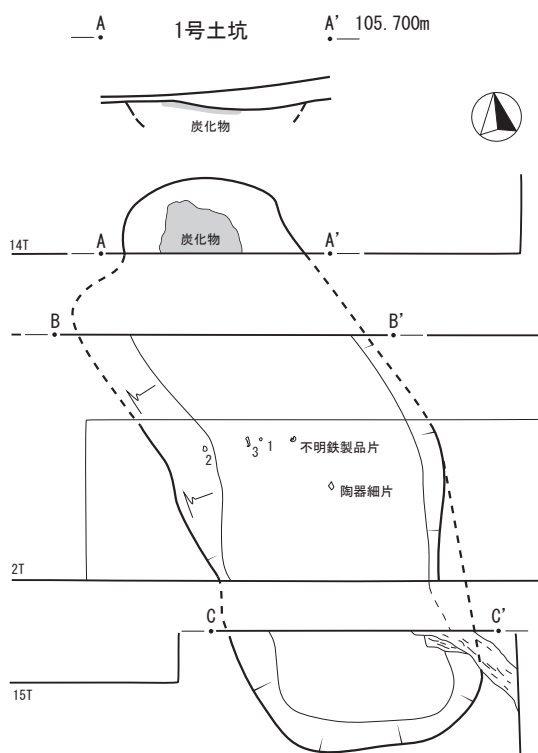
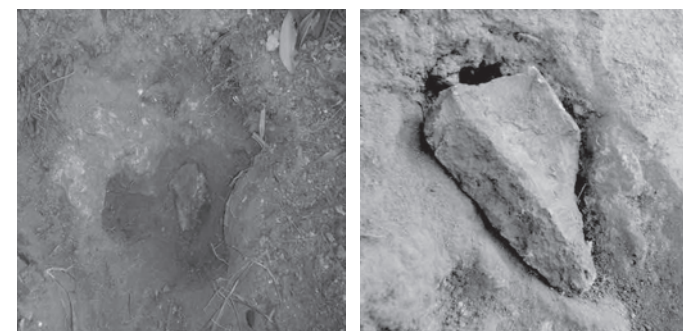
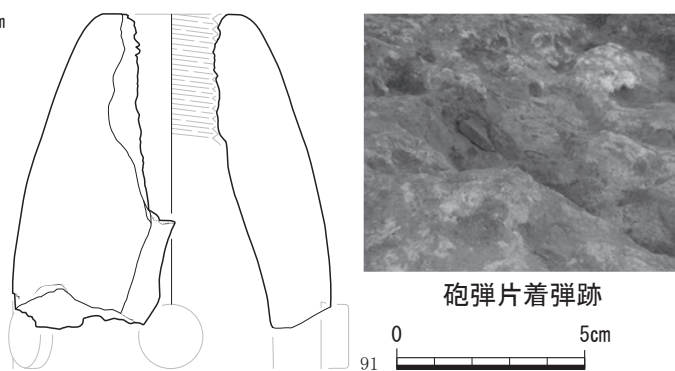
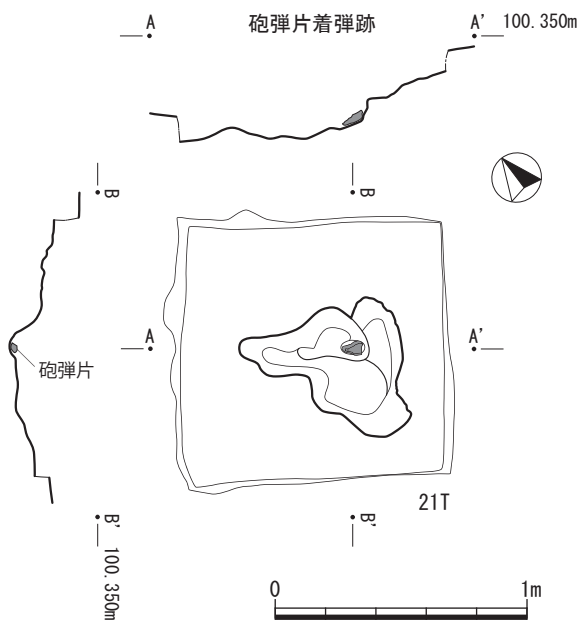
崇烈碑の 30 m ほど下の西斜面に浅いすり鉢状の場所がある。調査前はゴミ焼き場と聞いていたが、規模が大きく整った形状で、何らかの遺構の可能性があったので調査することになった。東西方向に 3 T を掘り下げ、全形把握のため南北方向に 19 T と 20 T を掘り下げた。

規模は南北 11.45 m、東西 3.85 m、深さ 0.3 ～ 1.05 m の略方形と推定され、地山が岩礫のため壁や底面には凸凹があり、底面は平坦である。壁は斜め外方に直に立ち上がり、壁面も平面的。東西方向の 3.85 m 以西の 6.1 m は覆土が黒褐色土でゴミも多く含まれゴミ焼き場と思われ、ゴミ焼き場の範囲も本来は土取場とすると東西は 9.95 m になる。東西方向の底面は平坦なまま、自然地形に合わせて西に 40 cm 下降する。南側には作業路らしき幅 1 m ほどの細い道が碑に向かってのびる。遺物は 19 T で 1 点と 20 T で 2 点の白色石灰岩片などが出土した。

覆土は淡黄褐色土主体で多く分層でき、締まりがなく全体にさらさらとしており、粘性はややあるが粒子はそろっている。地山は黄褐色砂質軟岩で壁下部に刃幅 4.5 cm の工具痕が明瞭に残り、工具は幅の狭い平鍬状のものが想定される。工具痕跡が明瞭に残存することから、土取り工事終了後にすぐに埋没したことが考えられ、土取場跡の窪地を後世にゴミ焼き場として再利用したのだろう。

黄褐色～茶褐色の造成盛土が確認されたのは 1 T、2 T、8 T、9 T、11 T で、1 T では最大 72 cm の層厚があり、北斜面にしたいに層厚を減じながら 5.9 m 続く。2 T は厚 15 cm ほどが端部から 5.92 m 続き、9 T は厚 10 cm ほど、11 T は最大 40 cm ほどが 1 号溝状遺構覆土上に、8 T では厚 10 cm ほどが 2 号溝状遺構覆土上にかぶる。

造成盛土と本跡の黄褐色砂質軟岩地山層は同質であり、土取りは地山土の採取が目的だったと考えられる。盛土造成の範囲は旧地形で斜面地だった崇烈碑の北側と西側で北側に厚く、平面的には一辺 25 m、幅 10 m の略三角形に盛土されているようだ。旧地形の削平だけでは、建碑に必要な面積と土量を確保できなかつたためと思われる。今回の調査で切土と盛土を組み合わせた造成工事にあたっては、隣接地から必要な土砂を得ていたことがわかり、当時の工事のありようの一端を垣間見ることができた。

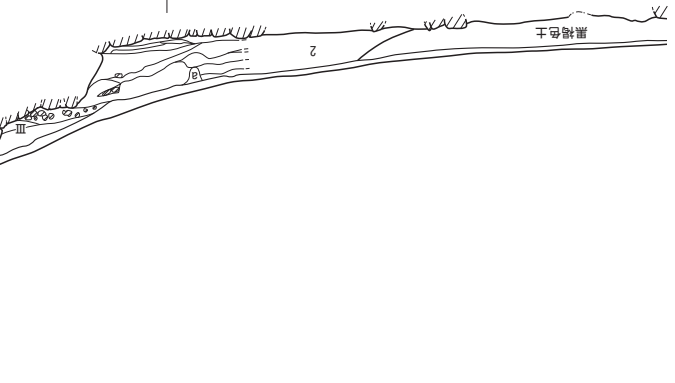
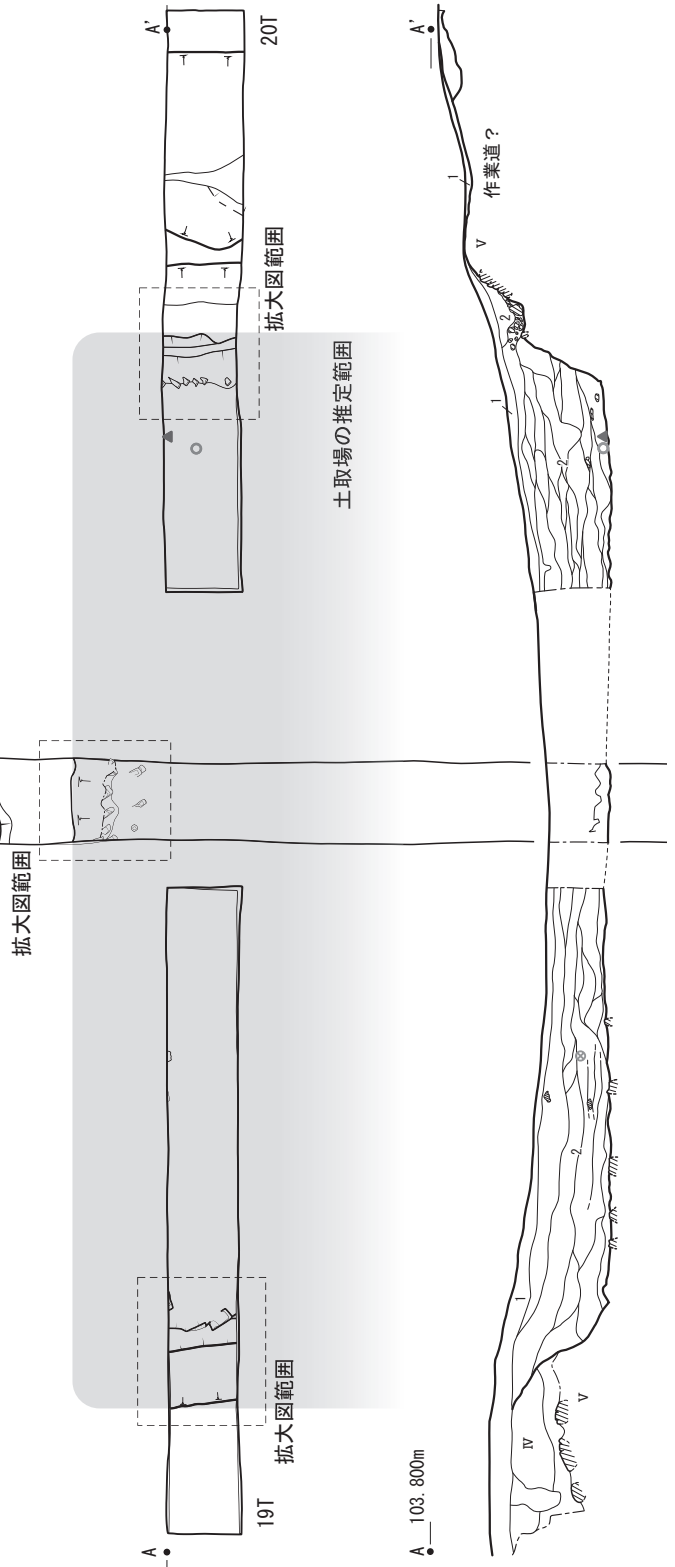
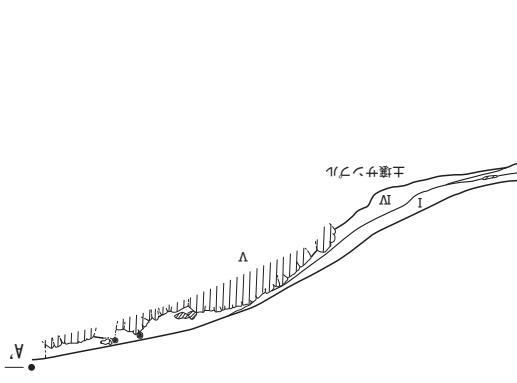
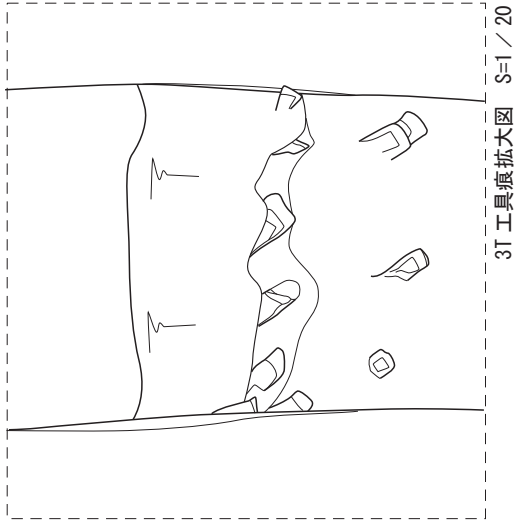
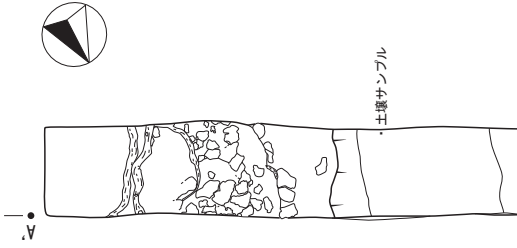
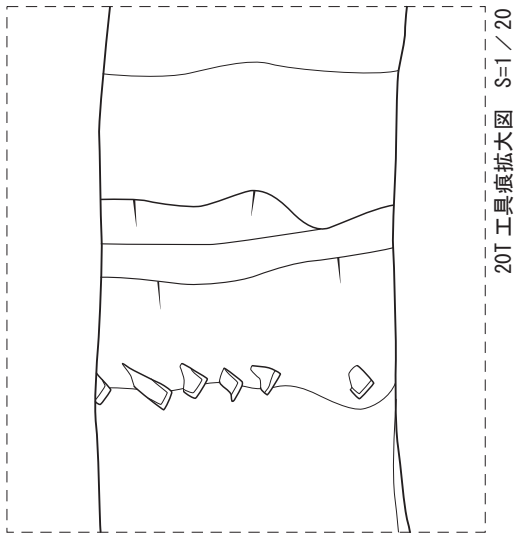


土層説明
 1 表土
 2 黄褐色土
 3 暗褐色土
 4 暗黄褐色土



1号土坑 (南より)

第 157 図 公園北半部調査地 砲弾片着弾跡、1号土坑

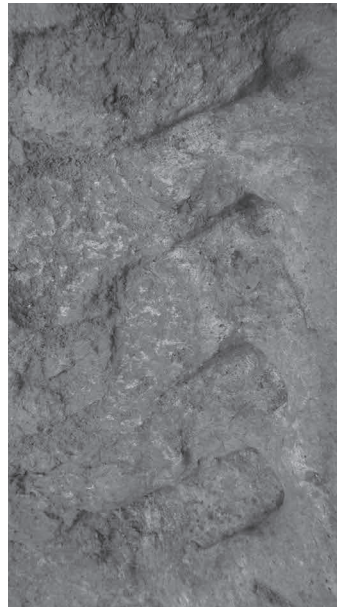




土取場跡、3T・19T・20T (南より)



3T 北壁断面 (南より)



20T 工具痕

第158図 3T、19T、20T土取場跡 (1/80)

(2) 遺物の分布状況 (第 159 図～第 162 図)

遺物は遺構出土とトレンチ出土、金属探知機調査の遺構外採集に大きく分かれるが、調査過程で帰属移動などがあって煩雑なので下に遺物一覧としてまとめた。金属探知機調査では遺物は調査地全域に分布し、特に集中する箇所は認められないが、種類によって分布に粗密と位置の相違がある。遺物は崇烈碑周囲に少なく、下位の西側斜面全体に多いのは建碑工事の影響が大きいと思われ、遊歩道より下位の斜面部が当時の地形をよく残していることを示し、トレンチ調査の結果とも符合する。

未使用弾・薬莢・雷管 これらの遺物は少ない。未使用弾 3 点はいずれも塹壕跡に集中する。薬莢と雷管が塹壕跡と崇烈碑北側 1 T、2 T、7 T と 11 T の 82 薬筒部のみがあるのは、この場所に胸壁を備えた陣地が存在したことを示すものと考えられる。

小銃弾 小銃弾はトレンチ出土以外では調査地に西半斜面に散在し、集中する箇所はないようだ。トレンチ出土分まで含めれば、塹壕跡周囲にやや集中するか。スナイドル銃弾が主体で、エンフィールド銃弾は少量でまとまりもない。小径銃弾やウエストリーリチャーズ銃弾は政府軍発砲とは考えにくい、スナイドル銃弾の近くで採集された。付近は斜面地なので遺物移動を考える必要がある。

砲弾 砲弾は東端の大楠木近くにもあり、調査地全体で確認され数は多い。榴弾だけでなく榴霰弾と霰弾子もあり、2 T と 11 T や 21 T 付近の集中、塹壕跡の 5 T 65、6 T 79 の近くには金属探知機調査の 5、13、14、17、19、21 の 6 点がある。以前から砲弾片や信管などが採集されていたことからすると、調査地全体が正確かつ激しい砲撃にさらされていたことを推定でき、枢要陣地だったことを物語る。小銃弾も含めて近くの二ノ坂調査地とは対照的で、両軍の占有陣地や大砲攻撃力の差として認識できる。

白色石灰岩 崇烈碑やその台座をこの場所で整形調整した際の石屑と考えられる、白色石灰岩片が 1 T、7 T など碑の北側のトレンチから計 271 点出土した。他トレンチにはあまりみられないので、この付近で調整作業などが行われたと考えられる。同様の石灰岩片は現地表面にも多く見られる。石灰岩片は 1 cm ～ 10 cm ほどの破片で、一部には面整形痕があるものや自然面を残すものもある。

遺構名	トレンチ	出土遺物, 数量(点)
1号溝状遺構	2T 他	小銃弾 1(16T), 四斤砲弾片 2・箭翼 2(2T)
塹壕跡	5T	未使用弾 1, 薬莢 11(スナイドル薬莢 9, スペンサー薬莢 3), 雷管 19, 小銃弾 12(A1 1, A2 7, B 2, 小片 1, 不明 1), 箭翼 1
	6T	薬莢 1, 雷管 1, 小銃弾 11(A2 8, B 2, 不明 1), 四斤砲弾片 1
		金属反応点 69
砲弾片着弾跡	21T	四斤砲弾片 1
1号土坑	2T 他	釘 2, 鉄製品 1
土取場跡	3T 他	石灰岩片 3(19T 1, 20T 2), 鉄製品 1(20T)
トレンチ	1T	薬莢 2, 雷管 3, 小銃弾 4(A2 3, B 1)
	2T	薬莢 1, 小銃弾 2(A2), 釘 1
	3T	小銃弾 9(P4 1, A2 6, B 1, b1 1), 四斤砲弾片 1
	7T	薬莢 1
	8T	小銃弾 1 (P4), 雷管 1
	11T	薬莢 1, 小銃弾 3(A2 1, B 1, A1/2 1), 四斤砲弾片 1, 霰弾子 2
	1T 他	石灰岩片 1T 125, 7T 138, 9T 5
金属探知機調査		未使用弾 2, 薬莢 4, 小銃弾 219, 四斤砲弾片 21, 榴霰弾片 3, 霰弾子 4, 箭翼 4, 鉄製品 16, 銭貨 5, 土器・陶磁器 17, その他 6 (小銃弾内訳) スナイドル銃弾 P2・1, P3・3, P4・14, A1・11, A2・137, B・36, 小片・7, 不明 1 エンフィールド銃弾 a2・2, b1・4 小径銃弾 2, ウエストリーリチャーズ銃弾 1



公園北半部調査地 遺物一覧表 (未図化含)

調査地中央部小谷遺物確認状況 (西より)



マーク凡例	
雷管	★
未発掘地	△
薬莖	■
小銃弾	◇
四斤砲弾片等	●
鉄製品	▲
石銃	○
土器・陶磁器・石	●
その他	⊗
種別不明	○



第159図 公園北半部調査地 遺物分布図1 (1 / 600)

公園北半部



第160図 公園北半部調査地 遺物分布図2 (1 / 600)



第 161 図 公園北半部調査地 遺物分布図 3 (1 / 600)

公園北半部



第162図 公園北半部調査地 遺物分布図4 (1 / 600)



スナイドル銃弾 37



スナイドル銃弾 61



スナイドル銃弾 83



スナイドル銃弾 165



エンフィールド銃弾 211



小径銃弾 217



四斤砲弾 1



霰弾子 30



蹄鉄 5



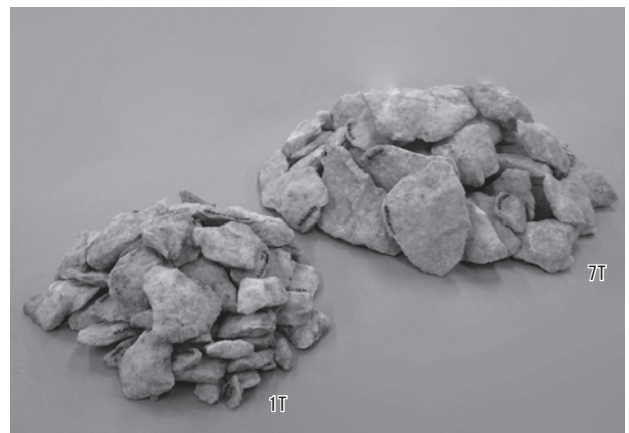
調査地西南端遺物出土状況（西より）



調査地中央西斜面遺物出土状況（西より）



21T 付近霰弾子確認状況（北より）



1T、7T、出土石灰岩片

c. 遺物

(1) 西南戦争関連遺物

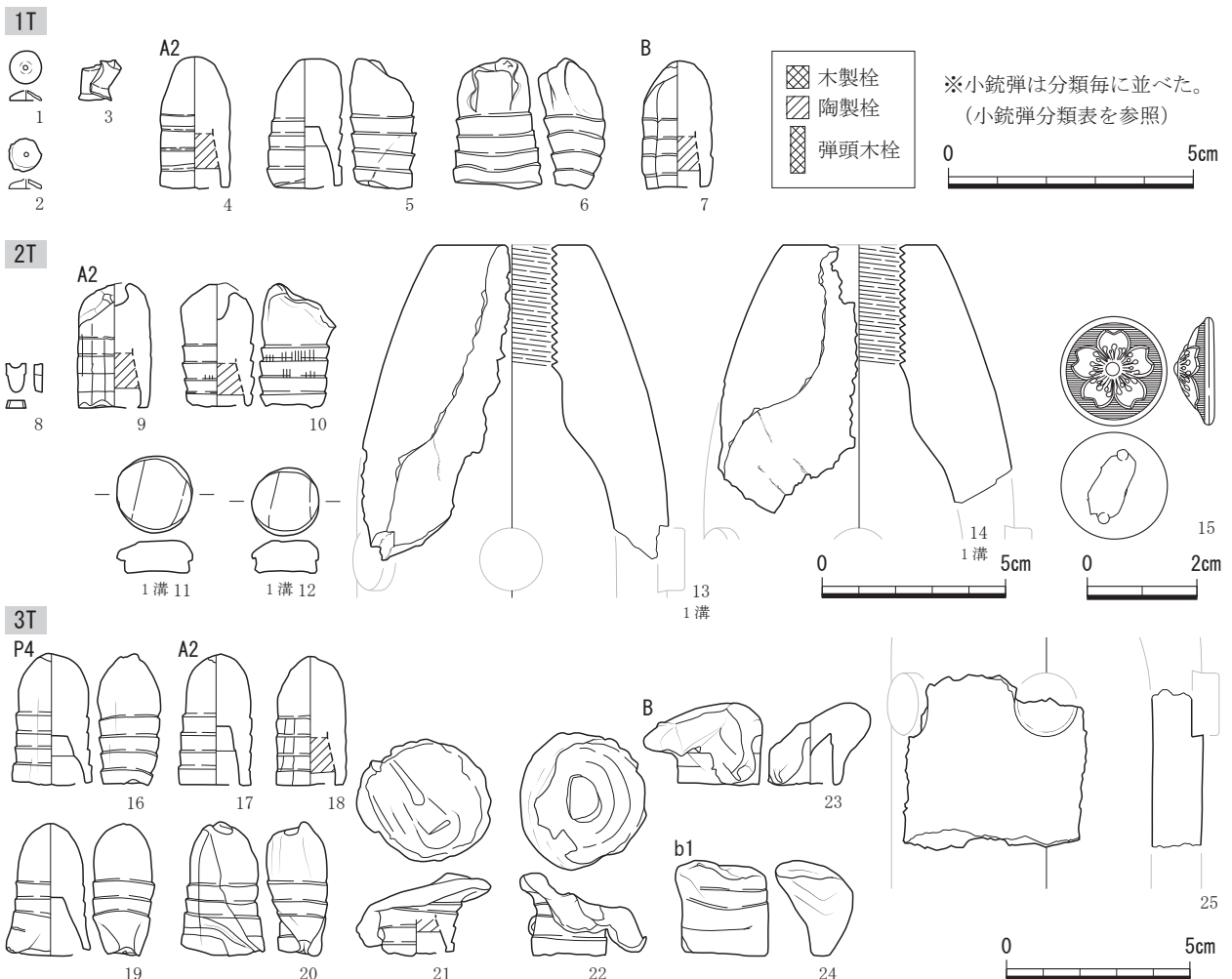
遺構出土遺物 (第 157 図・第 163 図・第 164 図)

1号溝状遺構の2T出土四斤砲榴弾頭部片13、14は一個体か、筒翼11、12は白錆化が進んでいる。塹壕跡の5T出土スナイドル未使用弾26、薬莖27～34は鉄製抽筒板のボクサー2bタイプ、硬質の底部だけが残る。スペンサー薬莖は変形が少なく、打撃痕もよく観察できるしっかりとした作りである。5T、6Tの未使用雷管は40、41、46、47、50、67の6点で出土比率は高く、他の使用済み品は破損してバラバラの状態だが、38は使用後も残存状態が良い。小銃弾はすべてスナイドル銃弾で、多くが塹壕外出土。各タイプがあるのは他調査地と同様。59、60、75のように大きく変形しているのは、地山中の岩石に衝突したものか。他は頭部が凹むものである。

砲弾片着弾跡21Tの四斤砲榴弾頭部片は厚い錆に覆われていた。1号土坑出土金属釦は直径約2.1cmの大型釦で、緑青が覆い銅製か真鍮製か。裏蓋だけが残りくの字に折れ曲がっている。輪足の取り付けが、堅牢なつくりで足も長く一度ひねってろう付けしてある。小孔や刻字はない。ちなみに明治8年制陸軍正衣金釦は桜花文の径七分(2.1cm)である。白色ガラス釦は完品で直径1.1cm、4孔、外縁に刻目がある。類品は八代市若宮官軍墓地や玉名市高瀬官軍墓地などで多く出土している。

遺構外トレンチ出土遺物 (第 163 図・第 164 図)

小銃弾はスナイドル銃弾が多く、6は弾頭部が一部めくれており、A2タイプの製造法が知れる良い資料である。24はエンフィールド銃弾で頭部と底部が潰れる。2T8はスナイドル薬莖雷管の発火金、15の



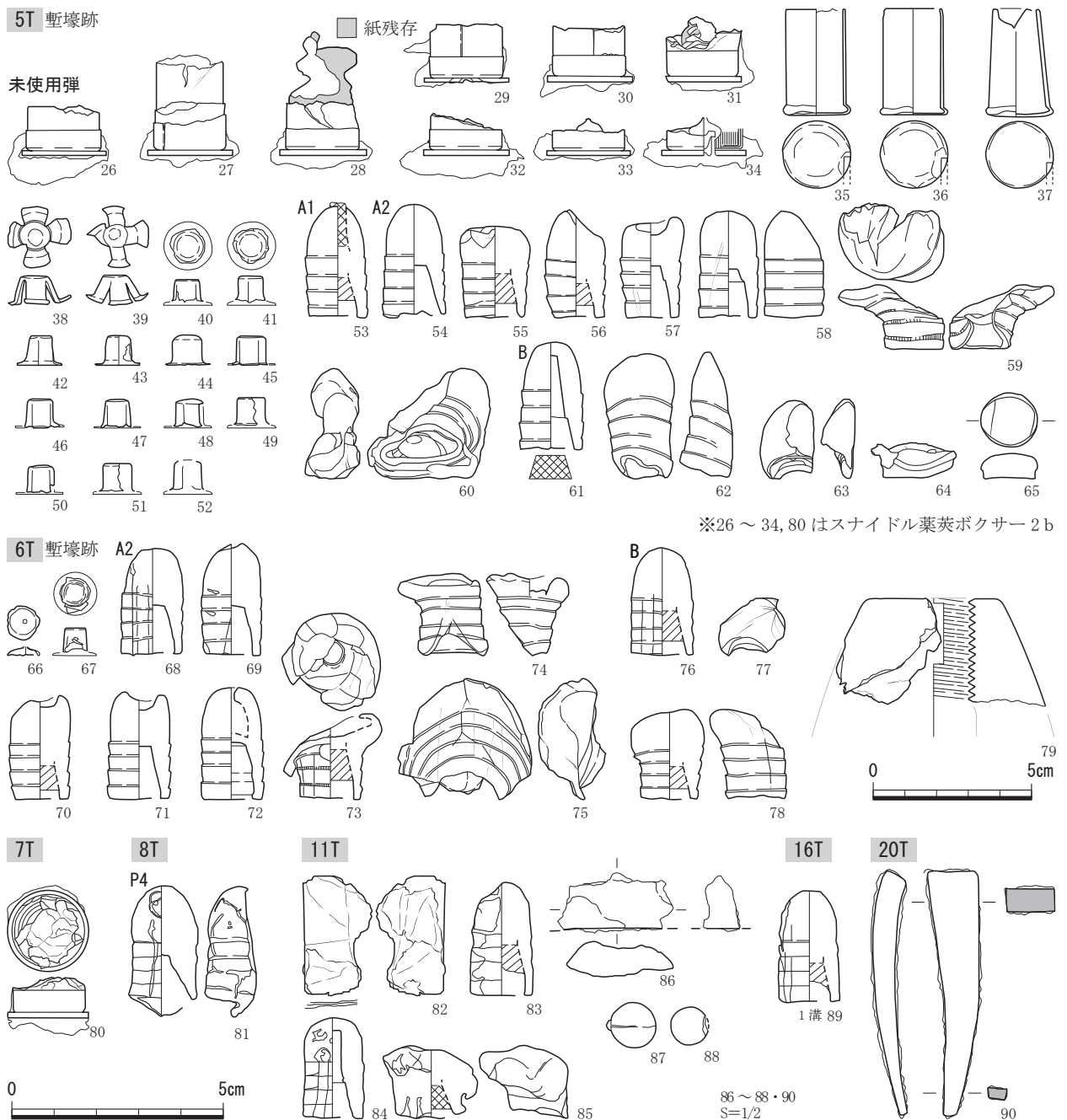
第 163 図 トレンチ出土遺物 1

桜花文金属釦は脆弱なつくりで、輪足の返りは短くろう付けもない。7 T 80 はスナイドル薬莖薬筒部が内側に折り込まれ、8 T 81 は縦半分が切り取られたよう。11 T 82 はスナイドル薬莖薬筒部のみ、86 は四斤砲弾底部小片、87 と 88 は霰弾子。土取場跡の 20 T 90 は不明鉄製品である。

金属探知機遺物 (第 165 図～第 169 図)

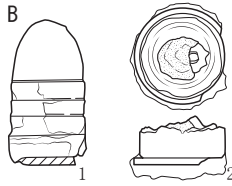
未使用弾 1 は B タイプで陶栓、薬莖はボクサー 2b タイプ。スナイドル銃弾には P2、P3、P4、A1、A2、B タイプがあり、タイプ数比率も他調査地と同様である。変形が少ないものが多い一方、大きく変形したものも目立つ。122 の円台孔には鉄製部品が入り込むも詳細不明。180 と 181 は円台孔が長く B タイプだが、圈溝がほぼ見えず弾裾が薄く要再検討。217 と 218 の小径銃弾は元はスナイドル銃弾だろうが、詳細不明。219 は長 3.5 cm、径 0.8 cm と細長く銃弾としては疑問が残るが、線条痕は 4 条確認できる。

鉄製品は 4 点とも調査区西端斜面採集。1 の小刀は平棟、中央がかなり研ぎ減りしているが完形品。2 は切先だがヤタガン銃剣ではない。3 と 4 は弾薬箱のネジ釘か。

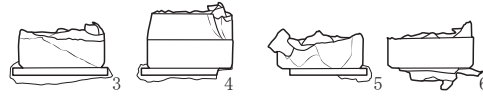


第 164 図 トレンチ出土遺物 2

スナイドル未使用弾



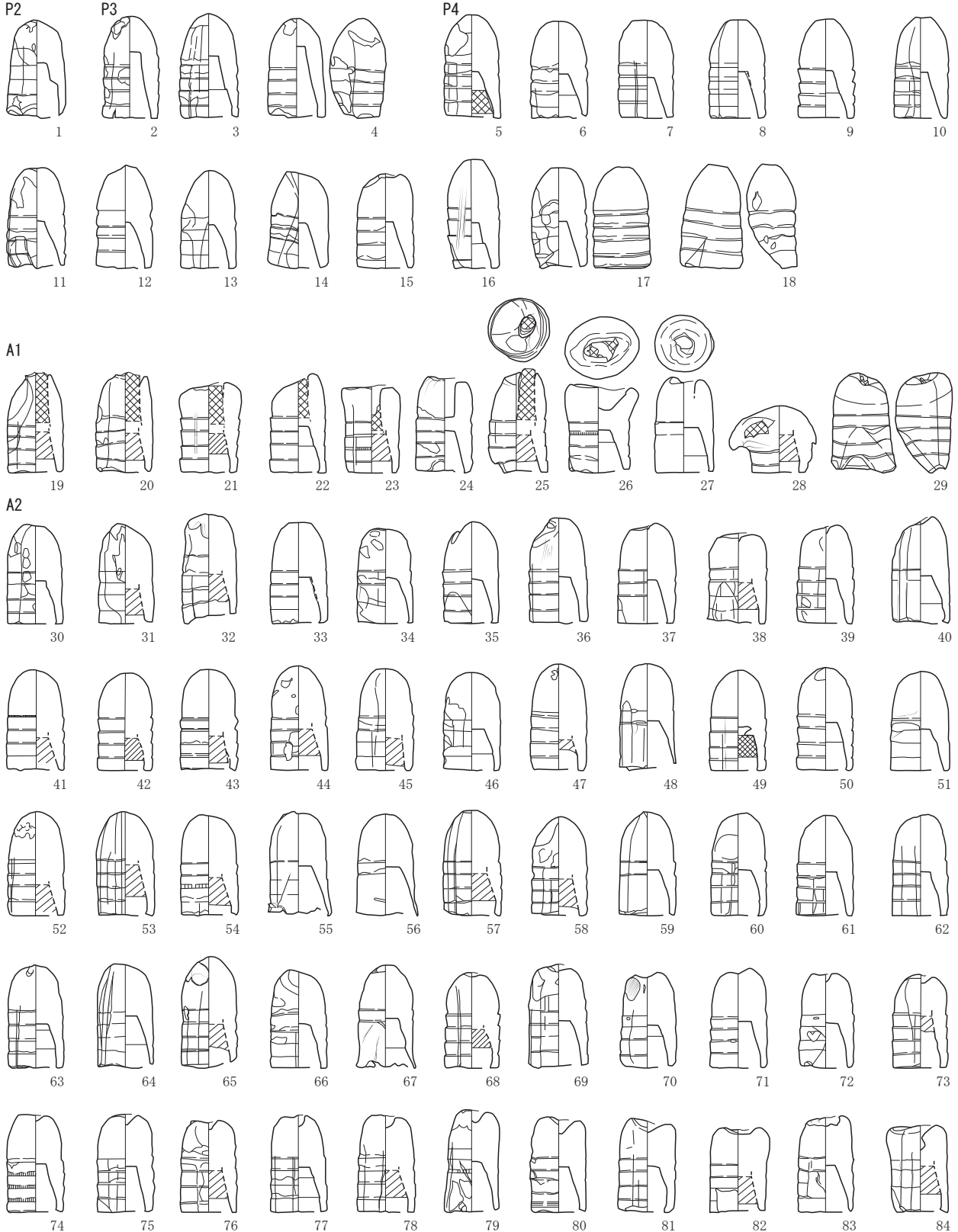
スナイドル薬莖



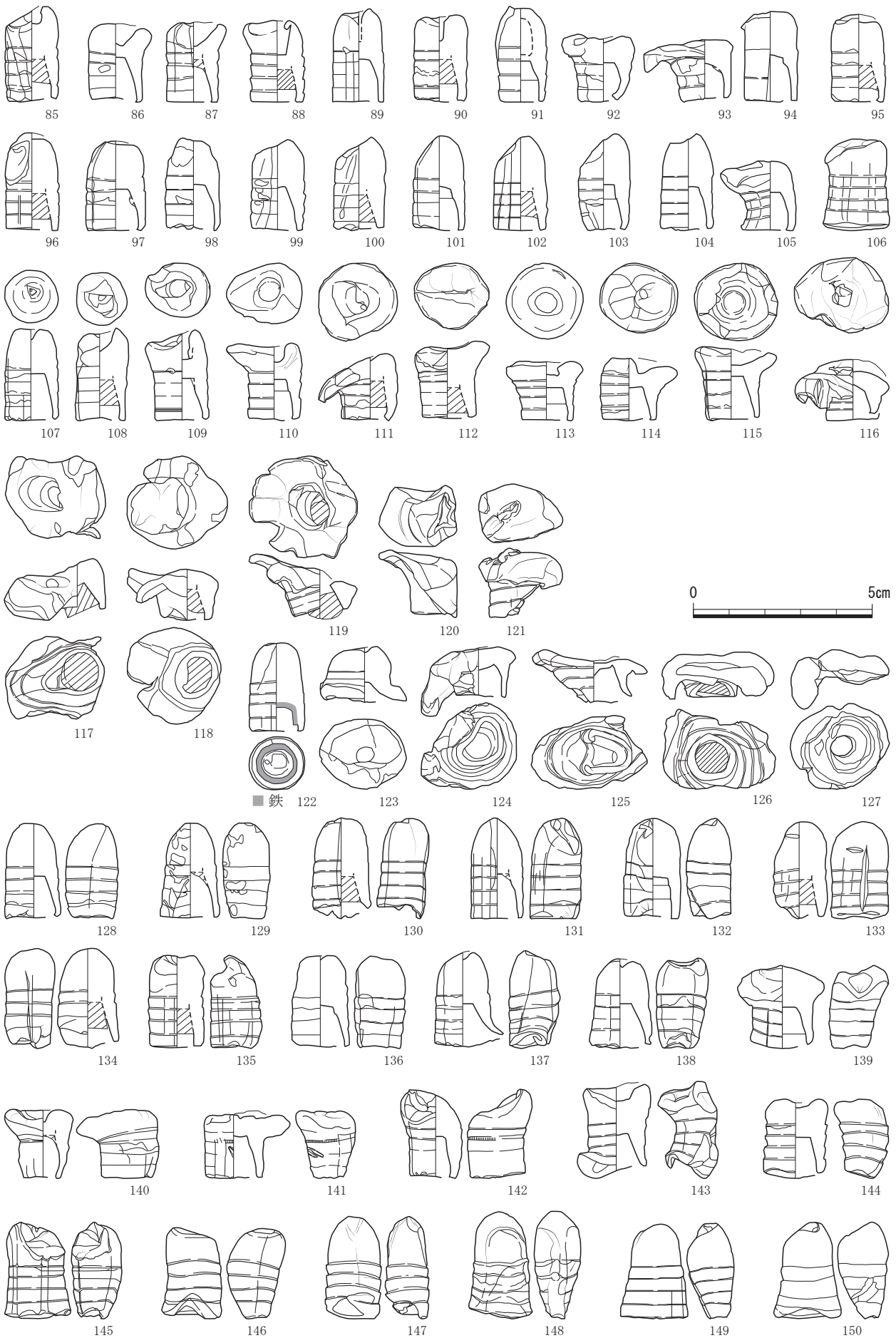
※小銃弾は分類毎に並べた。
(小銃弾分類表を参照)



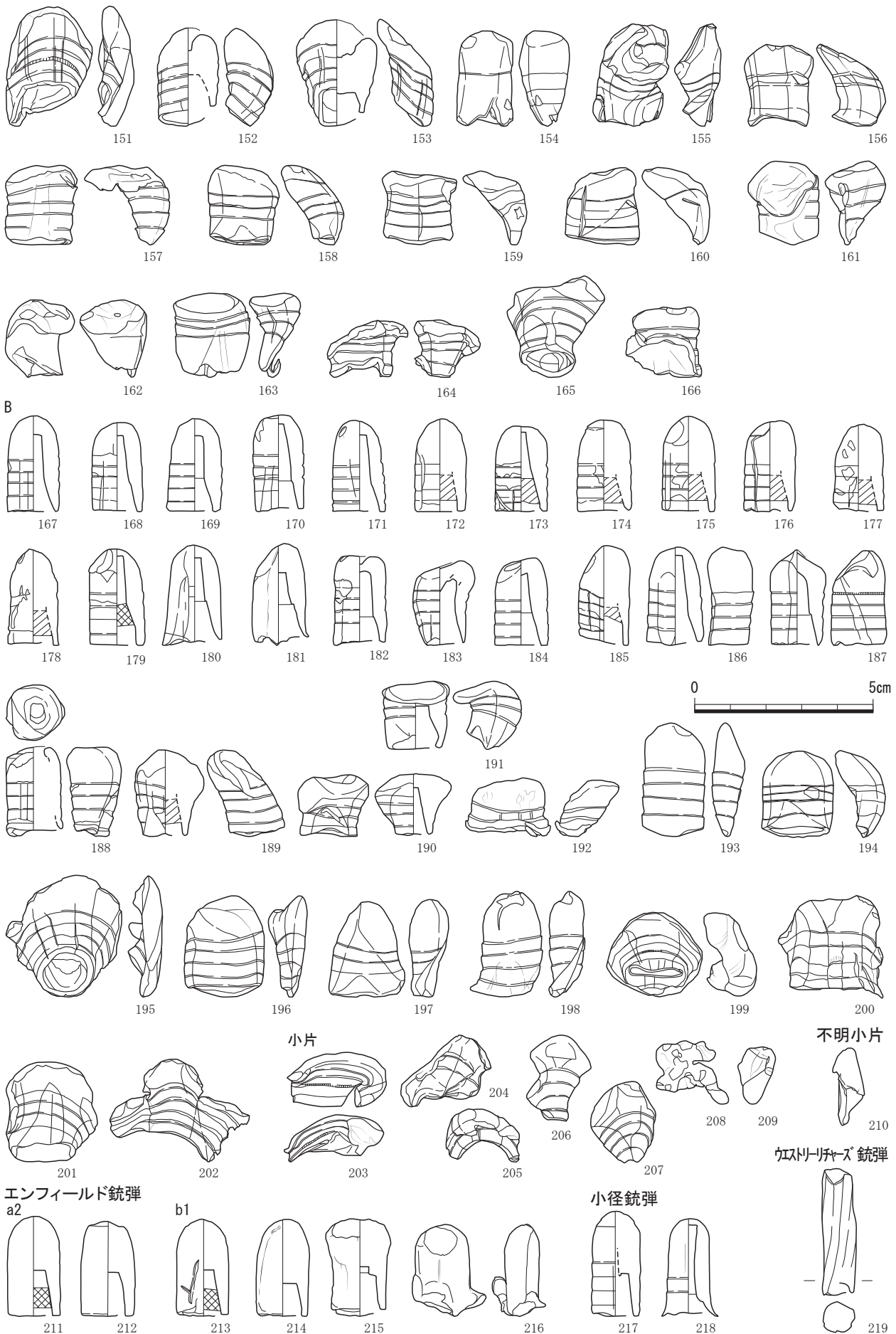
スナイドル銃弾



第 165 図 金属探知機採集遺物 未使用弾・薬莖・小銃弾 1

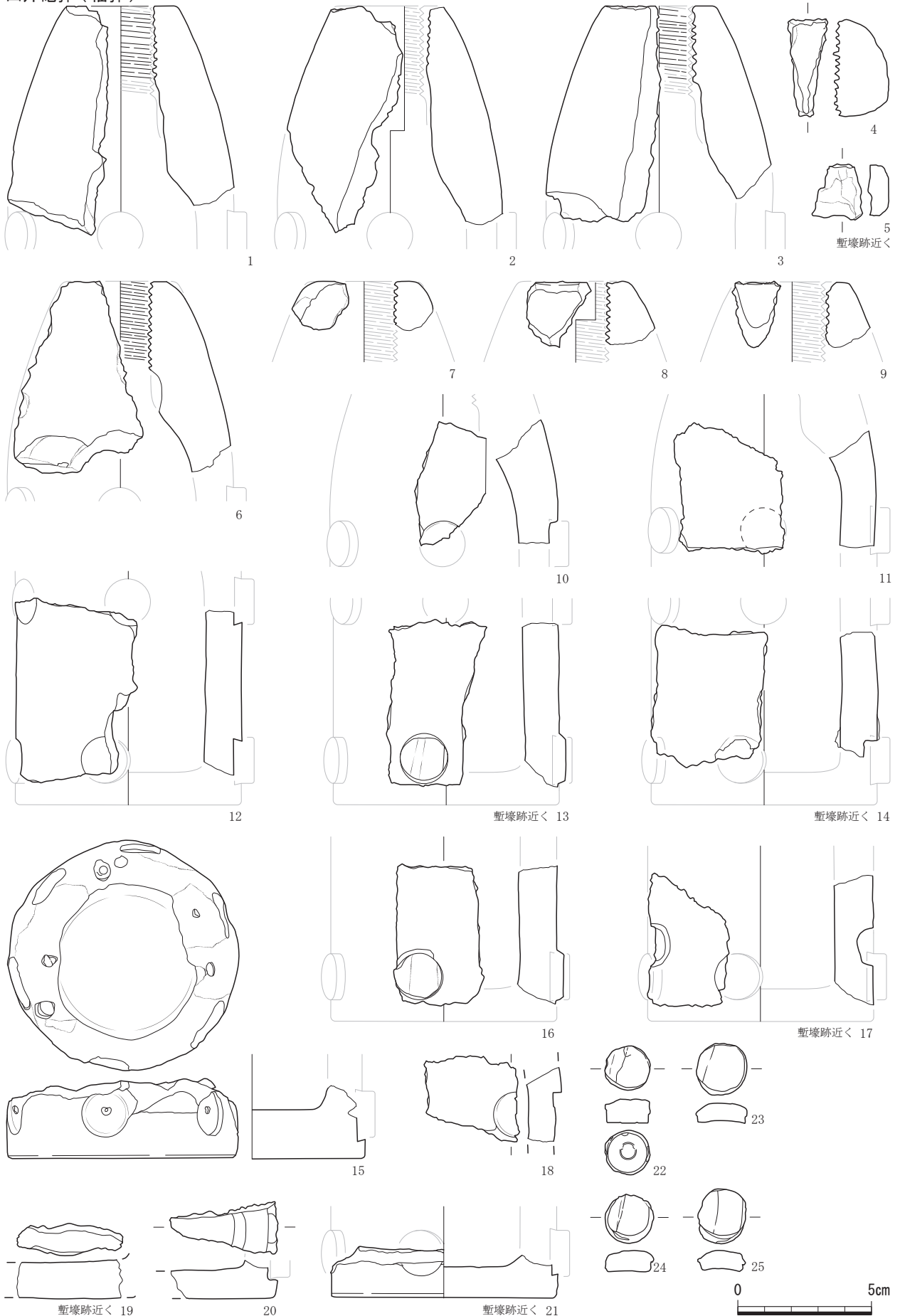


第 166 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 2



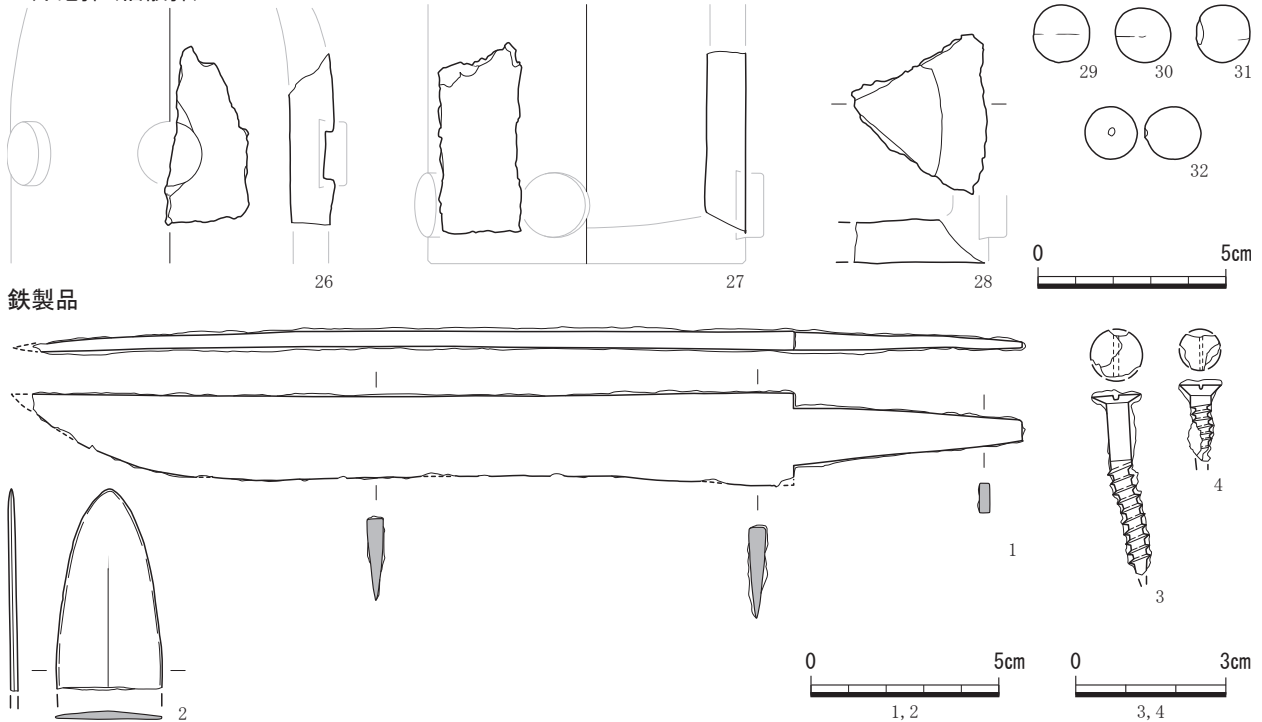
第 167 図 金属探知機採集遺物 小銃弾 3

四斤砲彈 (榴彈)



第 168 図 金属探知機採集遺物 四斤砲彈 1

四斤砲弾 (榴霰弾)



第 169 図 金属探知機採集遺物 四斤砲弾 2・鉄製品

(2) その他の遺物

鉄製品 (第 170 図 1～12)

1～3 は駄載環である。いずれも断面円形の細い棒鋼を円環形に曲げており、1 は閉じる部分 (棒の両端) に薄い鉄材を巻いて接合 (ロウ付けであろうか) を図っている。2・3 はともに弧の内側の一部が擦り減っている。鎖などの金属に繋いで使用したためと考えられる。4・5 は蹄鉄である。6～8 は工具で、6 は楔、7・8 は刀子である。9～12 は不明鉄製品である。うち 9 は建具あるいは調度具であろうか。

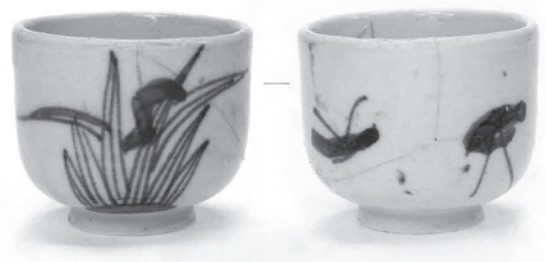
銭貨 (第 170 図 13～17)

いずれも西南戦争後の鑄造である。13 の半銭銅貨は年銘を判読できないが、竜文の鱗が所謂波鱗であることから明治 11 年以降の鑄造と判断できる。

土器・陶磁器類 (第 171 図 18～34)

18 は中世前期の土師器小皿である。19 は中世後期～近世初頭 (17 世紀前半) の瓦質土器播鉢である。内面の播目は小片のため認められないが、焼成形態や口縁部の形状から播鉢と判断した。20～34 は近世・近代の土器・陶磁器である。うち 22～34 は 18 世紀末～19 世紀代の所産で、西南戦争当時に使用されたものとして齟齬は無い型式である。注目されるのは 3 トレンチ出土の 26 である。顔料は、発色が淡いものの、破断面においては鮮やかな藍色を呈し、また、口縁部に顔料の飛沫様の斑が認められることから化学コバルトと判断される小丸碗である。これについては以下に特記する。

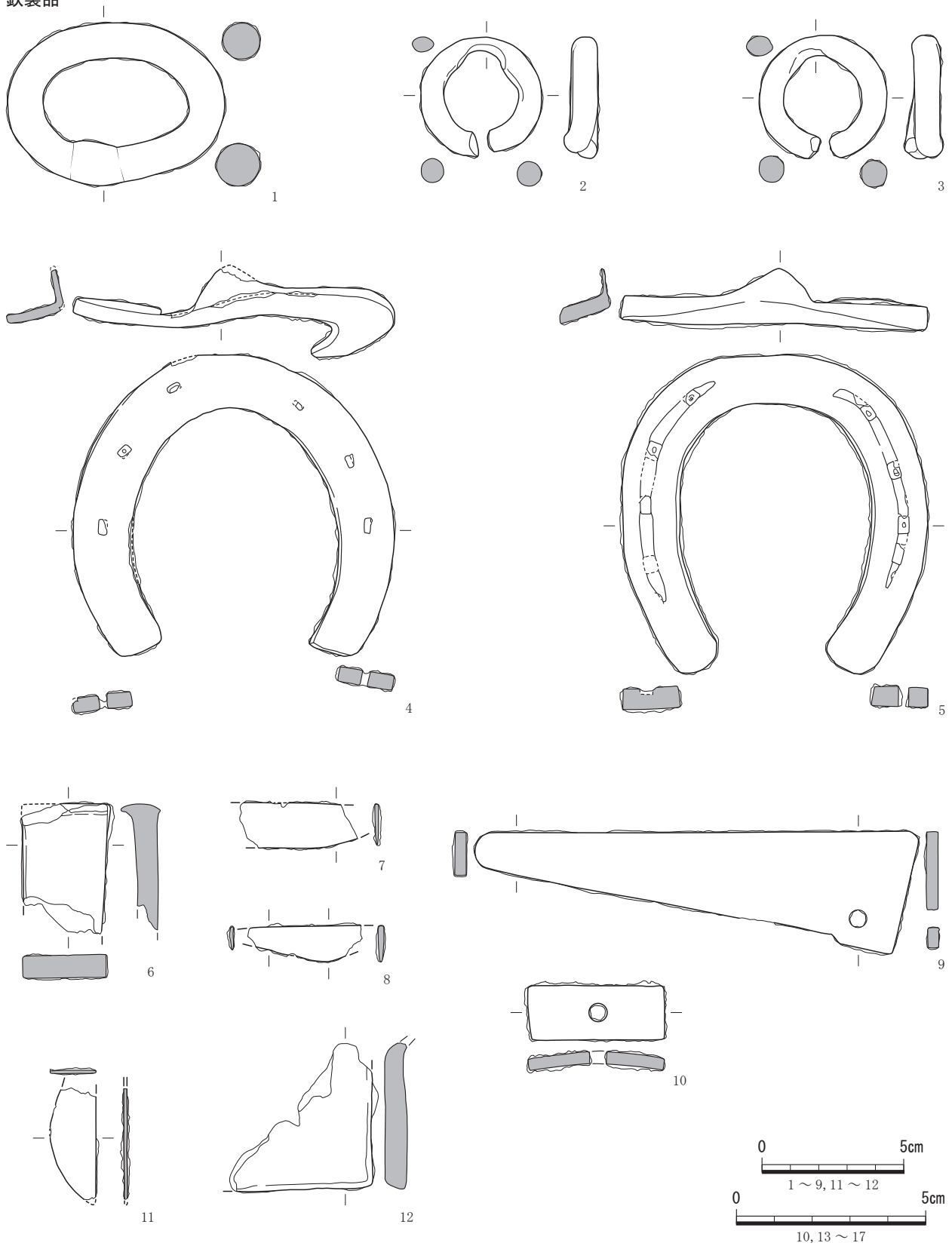
26 と器形・分量・顔料・文様意匠が共通する同形態品は、熊本鎮台本営跡＝熊本城本丸御殿跡出土品 (以下「鎮台跡出土品」) に認められ (熊本市熊本城調査研究センター 2016)、管見では熊本市内における他の事例を知らない。主文様は菖蒲で背面に蝶 2 頭を描くものであるが、本調査区資料 (26) は、失失により背面文様 (蝶 2 頭) が不明で、胎土の色調が黄ばんでいる点が相



※参考文献 (熊本城調査研究センター 2016) より転載

26 の同形態品

鉄製品

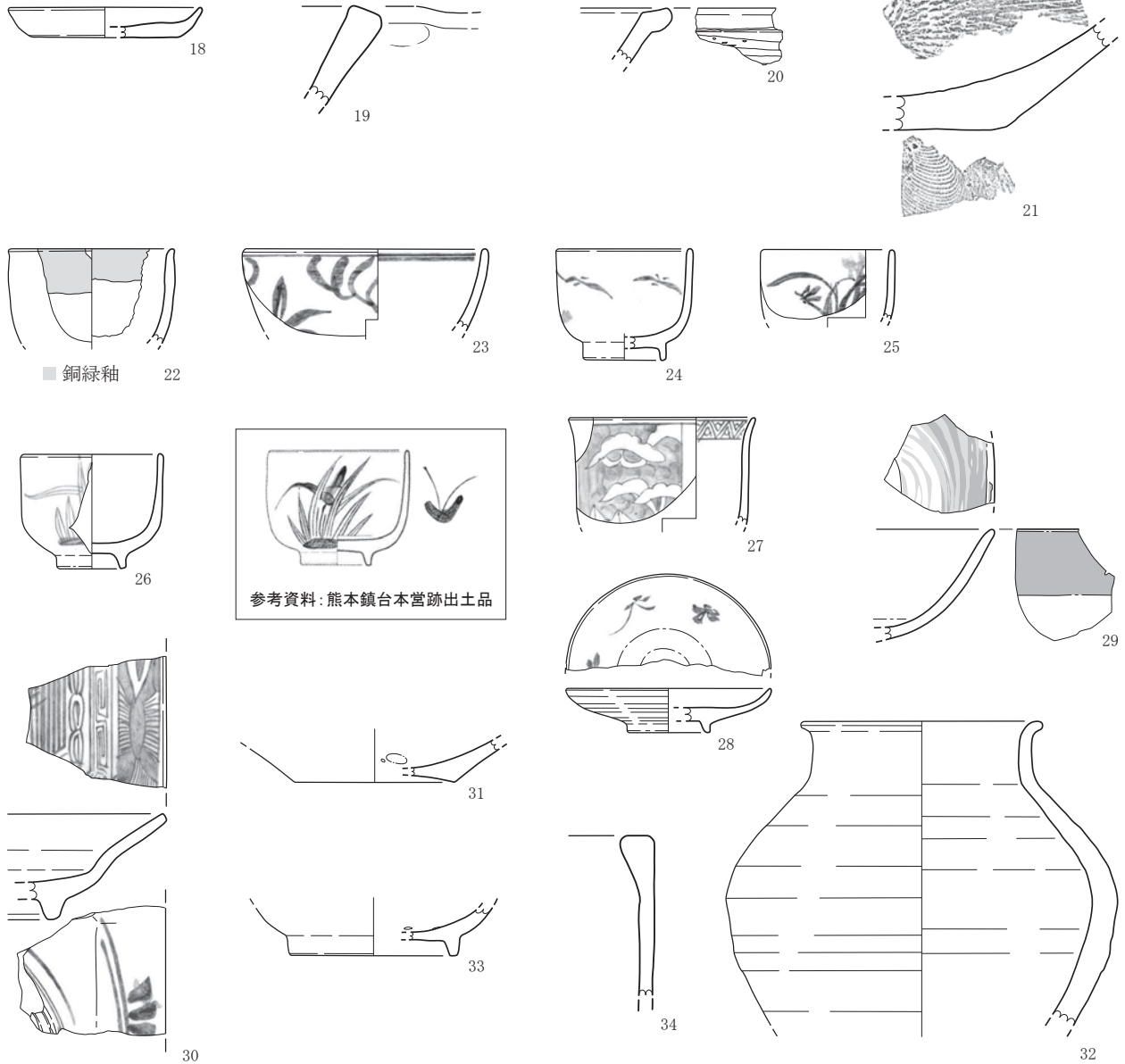


銭貨



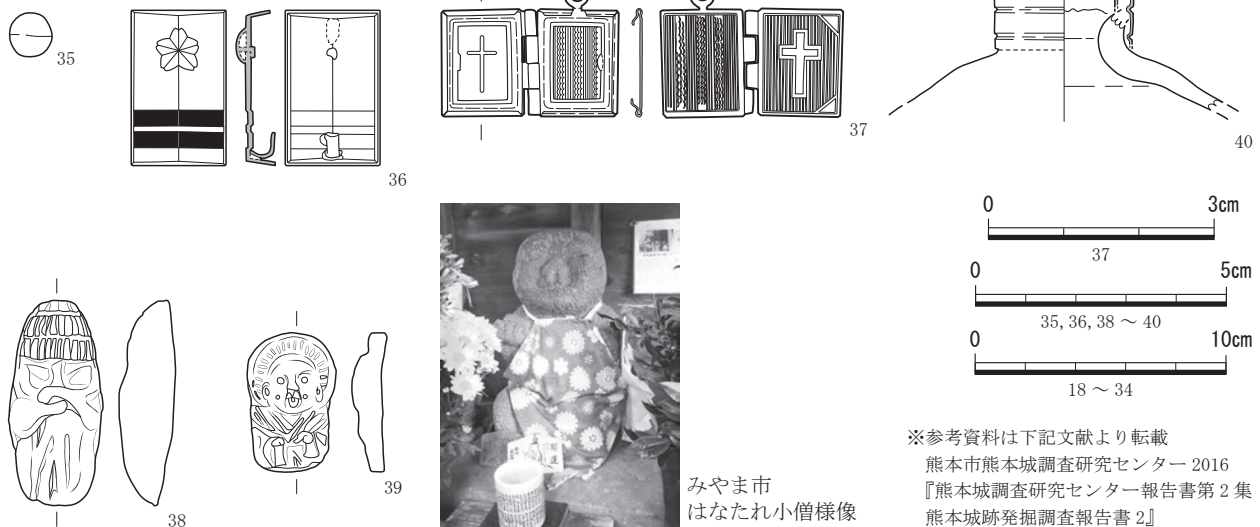
第170図 その他の遺物 - 鉄製品・銭貨

土器・陶磁器類

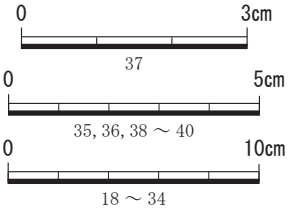


参考資料：熊本鎮台本宮跡出土品

銅製品ほか



みやま市
はなたれ小僧様像



※参考資料は下記文献より転載
 熊本市熊本城調査研究センター 2016
 『熊本城調査研究センター報告書第2集
 熊本城跡発掘調査報告書2』

第171図 その他の遺物 - 土器・陶磁器類・銅製品ほか

違する。また、熊本県宇土市網田焼窯資料(宇土市教育委員会のご厚意により実見)にも類品があつて、これは主文様の意匠(草花文)のみが少し異なる。これらは、下記の理由から西南戦争当時の型式と考えられる。

- 器形は19世紀初頭からの形態(小丸碗)を引き継ぎながら、文様は化学コバルト手描きである。
 - 鎮台跡出土品には、明治10年(1877)2月19日に焼失した際の焼土層から出土したものが多く、なかには、線描は呉須の可能性が高く、塗りは化学コバルトのものも認められる。
 - 網田焼窯資料は、熊本藩の保護・育成政策が打ち切られて民窯へと転換した文政10年(1829)以降とみられる19世紀第2・3四半期の資料中であつて、呉須描き文様の皿と融着したものが認められる。
- なお、鎮台跡では、上記の同一形態品が未報告資料を含め167点出土していることも注目される。他にも同時期のもので、それぞれに器形・法量・文様(化学コバルト手描き)が共通する端反碗・筒形碗・五寸皿などが多量に見られ、これらは、熊本鎮台が兵士・官吏の食器として一括購入したものと考えられる。

以上から、本調査区資料(26)については、鎮台跡出土品との関連を想定することが可能といえる。

銅製品ほか(第171図35～40)

35は径8.6mmの鉛弾である。火縄銃1匁銃弾の可能性がある。36は陸上自衛隊二曹あるいは航空自衛隊二等空曹の銅製襟章である。現代品とみられるが、軍事関連品であることから掲載した。37は銅製ロケットである。38・39は土師質の芥子面である。38は虚無僧、39は稀少例で、小児が鼻水を垂らしたとみられる表現から福岡県みやま市の民話「はなたれ小僧様」を象ったものと考えられる。その場合、顔の周りの円形の表現はバッチョウ笠というよりは、光背と見る方が自然であろう。参考資料としてみやま市山川町の路傍に祀られている「はなたれ小僧様」像の写真を掲示しておく。40はガラス瓶である。明青色で気泡が目立ち、鋳バリは認められない。口縁部を意図的に打ち欠き、その後に銅製の口縁を装着している。

【参考文献】

熊本市熊本城調査研究センター 2016『熊本城調査研究センター報告書第2集 熊本城跡発掘調査報告書2』

第16表 田原坂公園北半部調査地 出土遺物観察表

スナイドル未使用弾(第164図・165図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	弾頭部								薬莖底部					備考
			分類	圈溝			栓材/色	計測値(mm/g)			分類	抽筒板	計測値(mm/g)			
				数	形	刻目		全長	最大径	重さ			現存長	径	重さ	
26	中7	P3	—	—	—	—	—	—	—	—	2b	鉄	12.8	21.6	4.7	5T, 火薬残滓, 旧R12
1	す1319	P1	A/B	4	鋸	×	陶/茶	28.4	15.3	31.4	—	—	—	—	—	陶栓外れる
2	す1321	P2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	鉄	10.0	20.3	5.1	火薬残滓, 旧R2

スナイドル薬莖(第163図～第165図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒板	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒板	計測値(mm/g)			備考
					現存長	径	重さ							現存長	径	重さ	
1	す1300	R5	—	—	2.0	6.4	0.1	1T, 雷管室上部のみ残存	33	中8	R15	2b	鉄	8.5	17.0	4.4	5T
									34	さ39	R10	2b	鉄	9.0	18.0	5.6	5T
2	す1301	R6	—	—	2.0	6.5	0.2	1T, 雷管室上部のみ残存	66	中24	R22	—	—	2.0	8.0	0.2	6T, 雷管室上部のみ残存
									80	す1314	R23	2b	鉄	9.5	17.0	6.2	7T
8	中3	R7	—	—	6.0	—	0.2	2T 発火金のみ残存, 厚み1.8mm	82	す1315	R24	—	—	28.0	16.0	0.4	11T 筒部のみ残存
									3	さ50	R3	2b	鉄	9.5	17.0	5.6	
27	中9	R16	2b	鉄	12.8	17.0	5.4	5T 底蓋に継目有 発火金欠	4	す1320	R1	2b	鉄	14.5	17.0	4.9	
									5	さ52	R26	2b	鉄	7.0	17.0	4.1	
									6	さ51	R25	2b	鉄	9.2	17.0	4.4	
29	中6	R11	2b	鉄	13.5	17.0	4.8	5T	—	—	R8	5T, 細片					
30	中12	R20	2b	鉄	13.0	17.0	5.2	5T	—	—	R13	5T, 薬莖の跡の土塊					
31	す1313	R21	2b	鉄	15.3	17.0	4.7	5T 雷管室上部欠	欠番	欠番	R2	未使用弾P2へ変更					
									欠番	欠番	R12	未使用弾P3へ変更					
32	中10	R17	2b	鉄	10.0	17.0	25.7	5T	欠番	欠番	R4	雷管W24へ変更					

スペンサー薬莖 (第 164 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒板	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	抽筒板	計測値(mm/g)			備考
					現存長	径	重さ							現存長	径	重さ	
35	さ37	R9	—	—	25.0	14.0	3.5	5T, 56-56	37	中5	R19	—	—	25.5	14.0	3.7	5T, 56-56
36	中4	R14	—	—	25.0	14.0	3.9	5T, 56-56									

雷管 (第 163 図・第 164 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	計測値(mm/g)		備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	計測値(mm/g)		備考
			高さ	重さ					高さ	重さ	
3	す1302	W1	0.8	0.2	1T, 1/4の破片3片	46	す1309	W18	0.6	0.3	5T, 未使用品
38	す1312	W21	0.7	0.6	5T, 使用済, 完形品, 厚み有	47	す1310	W19	0.6	0.2	5T, 未使用品
39	中19	W12	5.5	0.4	5T, 使用済	48	す1308	W17	0.7	0.2	5T, 1/4の破片4片
40	中17	W10	5.0	0.2	5T, 未使用品, 打撃痕無, 形状を保つ	49	中18	W11	6.5	0.1	5T, 1/4の破片1片
41	中15	W8	6.0	0.3	5T, 未使用品, 形状を保つ	50	す1307	W16	0.7	0.2	5T, 未使用品
42	中14	W6	5.5	0.3	5T, バラバラ5片, 打撃痕無	51	中20	W13	1.3	0.1	5T, 1/4の破片1片
43	中13	W5	7.0	0.1	5T, バラバラ6片	52	中16	W9	2.0	0.1	5T, 内面頂部赤色の物が付着(雷汞?)
44	中21	W15	7.0	0.1	5T, 1/4の破片2片	67	中22	W22	5.0	0.2	6T, 未使用品, 打撃痕無, 形状を保つ
45	す1311	W20	0.7	0.2	5T, 破片5片						

スナイドル銃弾 (第 163 図～第 167 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓	腔綫	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			材/色	条	全長	
4	シ391	Y212	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.6	14.5	29.0	1T
5	さ18	Y209	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	15.0	28.7	1T
6	さ19	Y210	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	27.0	17.8	28.6	1T, 巻造り
7	シ390	Y211	B	4	鋸	×	陶/灰	5	26.5	14.3	30.3	1T
9	シ392	Y214	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.2	15.0	28.8	2T
10	さ23	Y213	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	25.0	14.0	30.5	2T
16	さ27	Y215	P4	4	丸	×	—	5	27.0	15.0	32.2	3T
17	さ31	Y219	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	14.0	28.2	3T
18	シ394	Y222	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.3	29.2	3T
19	さ32	Y220	A2	3	鋸	×	陶/茶	5	27.0	17.0	27.7	3T
20	さ30	Y218	A2	3	鋸	×	—	不明	27.0	16.8	27.9	3T
21	さ29	Y217	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	16.0	27.0	28.9	3T
22	さ28	Y216	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	16.0	25.0	26.9	3T
23	シ393	Y221	B	3	鋸	×	—	不明	16.5	24.0	28.5	3T
53	さ44	Y233	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.0	30.2	5T, 弾頭木栓残存有, 弾頭木栓動く
54	さ35	Y224	A2	4	鋸	×	—	不明	26.0	14.0	27.1	5T
55	シ397	Y245	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.5	16.3	29.2	5T
56	さ41	Y228	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	25.0	14.0	29.7	5T
57	さ36	Y225	A2	4	鋸	×	—	5	23.0	14.0	28.2	5T
58	さ34	Y223	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	13.0	28.4	5T
59	さ43	Y232	A2	4	鋸	○	—	不明	14.0	24.5	19.4	5T
60	さ42	Y231	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	26.5	28.2	27.2	5T
61	さ38	Y226	B	4	鋸	×	木	5	25.0	14.0	27.2	5T, 木栓外れる
62	さ40	Y227	B	4	鋸	×	陶/茶	不明	29.0	16.0	26.0	5T
63	シ396	Y230	小片	—	—	—	—	不明	18.5	12.8	6.0	5T
68	シ400	Y247	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	14.2	28.3	6T
69	シ403	Y250	A2	4	鋸	×	—	5	26.2	14.0	28.5	6T
70	さ45	Y234	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	14.0	28.1	6T
71	さ47	Y235	A2	4	鋸	○	—	5	25.0	14.0	28.6	6T
72	さ49	Y237	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.0	28.1	6T
73	シ401	Y248	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	20.0	23.0	25.4	6T
74	さ50	Y239	A2	4	鋸	×	—	5	19.0	21.0	28.8	6T
75	シ399	Y246	A2	4	鋸	×	—	不明	28.2	31.5	19.7	6T
76	シ402	Y249	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.2	14.5	29.2	6T
78	さ48	Y236	B	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	17.0	29.5	6T
81	オ257	Y240	P4	4	丸	×	—	不明	31.0	16.7	30.6	8T
83	オ260	Y243	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	26.9	15.0	28.8	11T
84	オ259	Y242	B	4	鋸	×	陶/茶	5	23.4	15.0	29.3	11T
85	オ258	Y241	A1/2	3	鋸	×	木	5	15.6	25.0	32.3	11T
89	オ261	Y244	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	15.0	28.6	16T
1	オ274	Y20	P2	4	丸・鋸?	×	—	5	25.0	16.0	28.2	
2	う396	Y184	P3	4	鋸	×	—	不明	26.0	15.0	28.5	
3	す818	Y200	P3	4	鋸	×	—	5	26.5	15.0	29.5	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
4	シ409	Y34	P3	4	鋸	×	—	不明	26.0	15.0	25.4	
5	シ473	Y148	P4	4	丸	×	木	5	27.0	14.0	34.1	木栓外れる
6	す773	Y108	P4	4	丸	×	—	不明	25.5	14.5	30.6	
7	う386	Y174	P4	4	丸	×	—	5	26.0	14.5	32.6	
8	す829	Y253	P4	4	丸	×	—	5	25.5	14.5	31.7	
9	さ34	Y61	P4	4	丸	×	—	5	20.0	14.0	32.0	鋳型造縦鋳バリ有
10	シ406	Y31	P4	4	丸	×	—	5	26.1	14.5	32.9	
11	す766	Y99	P4	4	丸	×	—	5	26.0	15.0	31.1	
12	オ284	Y153	P4	4	丸	×	—	5	26.5	15.1	34.0	
13	オ266	Y10	P4	4	丸	×	—	不明	25.4	14.8	29.8	
14	オ298	Y167	P4	4	丸	×	—	不明	25.1	15.6	31.0	
15	す750	Y76	P4	4	丸	×	—	5	25.0	15.0	31.8	
16	さ38	Y68	P4	4	丸	×	—	5	28.0	14.5	33.3	
17	す776	Y191	P4	4	丸	×	—	不明	26.0	14.5	32.8	
18	オ263	Y4	P4	4	丸	×	—	不明	27.6	17.6	33.6	
19	シ472	Y147	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.5	29.0	弾頭木栓残存有, 弾頭木栓動く
20	す755	Y82	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	29.6	弾頭木栓残存有, 弾頭木栓動く
21	さ35	Y62	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	15.0	29.0	弾頭木栓残存有
22	さ41	Y81	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	14.0	28.6	弾頭木栓残存有
23	シ407	Y32	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	22.6	15.5	29.2	弾頭木栓残存有
24	シ436	Y110	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.0	26.1	弾頭木栓残存無
25	シ423	Y52	A1	4	鋸	×	陶/灰	5	27.0	15.5	30.3	弾頭木栓残存有
26	す767	Y101	A1	4	鋸	○	—	5	28.0	18.5	29.4	弾頭木栓残存有
27	す769	Y103	A1	4	鋸	×	—	5	25.0	15.0	26.0	弾頭木栓残存有
28	シ417	Y45	A1	4	鋸	×	陶/茶	5	17.8	22.5	24.2	弾頭木栓残存有
29	す747	Y71	A1	4	鋸	×	—	5	26.0	17.0	28.5	弾頭木栓残存有
30	シ471	Y146	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	14.0	26.3	
31	オ272	Y18	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	15.0	29.0	
32	う398	Y186	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.5	14.0	28.8	
33	す827	Y251	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.9	
34	シ430	Y59	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.5	26.7	
35	シ446	Y121	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.5	28.0	
36	シ442	Y117	A2	4	鋸	×	—	5	27.5	14.5	28.0	
37	シ440	Y115	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	14.5	27.6	
38	シ429	Y58	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.8	15.0	28.3	
39	シ426	Y55	A2	4	鋸	×	—	5	25.1	15.0	28.7	
40	す753	Y79	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.0	15.0	28.0	
41	す763	Y93	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.0	15.0	28.8	
42	さ46	Y105	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.0	29.5	
43	す748	Y72	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	28.9	
44	シ464	Y139	A2	4	鋸	○	陶/灰	5	26.5	14.0	29.0	
45	シ405	Y30	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.2	15.0	28.8	
46	シ462	Y137	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	14.5	27.0	
47	シ410	Y35	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.5	14.7	28.5	
48	シ469	Y144	A2	4	鋸	×	—	5	27.5	14.0	28.0	
49	さ25	Y38	A2	4	鋸	×	木	5	28.0	14.0	30.5	木栓外れる
50	さ20	Y8	A2	4	鋸	×	—	5	28.0	14.0	28.6	
51	シ431	Y60	A2	4	鋸	×	—	5	25.8	15.0	27.2	
52	う388	Y176	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	15.0	29.4	
53	す832	Y256	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	15.0	28.8	
54	す837	Y261	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.0	14.5	28.5	
55	す751	Y77	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	17.0	25.6	
56	す831	Y255	A2	2	鋸	×	—	5	27.0	16.0	26.1	
57	す762	Y92	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	28.0	15.0	29.1	
58	オ287	Y156	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	30.0	
59	す774	Y189	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	15.0	28.4	
60	シ447	Y122	A2	4	鋸	×	—	5	26.5	14.5	27.9	
61	シ448	Y123	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.0	28.9	
62	シ412	Y37	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.1	14.5	27.7	
63	う394	Y182	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	14.5	28.3	
64	す752	Y78	A2	4	鋸	○	—	5	27.0	14.0	27.1	
65	オ291	Y160	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	29.0	14.5	28.3	
66	シ432	Y63	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	15.0	27.7	
67	さ43	Y100	A2	3	鋸	×	—	不明	26.0	14.0	24.8	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
68	さ1	Y1	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	14.0	29.2	
69	シ450	Y125	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	26.5	15.0	27.4	
70	オ279	Y26	A2	4	鋸	○	—	5	24.4	15.4	28.2	
71	シ463	Y138	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	14.5	27.4	
72	オ271	Y16	A2	4	鋸	×	—	5	24.5	15.0	27.9	
73	シ425	Y54	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.2	14.5	28.3	
74	オ772	Y107	A2	4	鋸	○	—	5	25.0	14.5	28.5	
75	シ441	Y116	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	14.5	28.2	
76	シ414	Y42	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.8	15.0	28.2	
77	う391	Y179	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	14.5	27.7	
78	う392	Y180	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	29.3	
79	オ285	Y154	A2	4	鋸	○	—	5	26.4	15.0	27.8	
80	オ775	Y190	A2	4	鋸	○	—	5	24.5	14.5	28.4	
81	シ453	Y128	A2	4	鋸	×	—	5	24.0	14.5	28.0	
82	シ465	Y140	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.5	16.0	29.5	
83	う390	Y178	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	25.0	14.5	27.1	
84	オ754	Y80	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	23.0	16.0	28.6	
85	オ756	Y83	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	26.0	15.0	29.6	
86	シ459	Y134	A2	4	鋸	×	—	5	21.0	17.0	26.8	
87	シ420	Y48	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.5	16.5	27.7	
88	さ39	Y73	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	22.8	17.0	29.3	
89	シ468	Y143	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	14.0	26.9	
90	オ294	Y163	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	23.5	14.8	28.7	
91	さ24	Y27	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	15.0	27.3	新しい傷有
92	う399	Y187	A2	4	鋸	×	—	5	18.5	20.0	28.5	
93	オ283	Y152	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	15.9	24.8	27.5	
94	オ290	Y159	A2	4	鋸	×	—	5	24.3	15.0	27.5	
95	オ834	Y258	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.5	15.0	29.3	
96	シ467	Y142	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	14.5	29.7	
97	オ835	Y259	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	28.2	
98	オ282	Y151	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	24.6	14.8	27.0	
99	オ270	Y15	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	15.0	28.8	
100	オ268	Y13	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.7	14.5	30.0	
101	シ424	Y53	A2	4	鋸	×	—	5	26.1	14.5	28.0	
102	オ289	Y158	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	15.0	29.6	
103	う397	Y185	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.0	28.7	
104	オ267	Y11	A2	4	鋸	×	—	5	26.4	14.8	27.4	
105	シ404	Y29	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	19.2	20.0	28.6	
106	シ418	Y46	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.4	18.5	29.1	
107	オ836	Y260	A2	4	鋸	×	—	5	25.5	15.0	27.7	
108	オ281	Y150	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.3	14.6	28.7	
109	オ784	Y199	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	25.0	27.0	28.1	
110	さ36	Y64	A2	4	鋸	×	—	5	20.0	21.2	26.9	
111	オ768	Y102	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.5	21.0	29.8	
112	オ746	Y70	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	21.0	21.0	29.0	
113	さ23	Y22	A2	4	鋸	×	—	5	16.0	21.0	27.6	
114	シ444	Y119	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	17.5	21.5	28.8	
115	オ765	Y98	A2	4	鋸	×	—	5	20.0	22.0	27.2	
116	オ749	Y74	A2	4	鋸	○	—	5	17.0	26.0	27.9	
117	シ452	Y127	A2	2	鋸	×	陶/茶	不明	18.0	28.0	24.7	陶栓外れる
118	オ264	Y5	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	14.0	26.4	26.9	
119	オ760	Y90	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	18.0	30.0	22.8	陶栓外れる
120	オ293	Y162	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	17.4	21.0	21.4	
121	さ42	Y86	A2	4	鋸	×	—	5	17.0	23.2	24.3	
122	シ439	Y114	A2	4	鋸	×	鉄	5	24.5	14.5	29.1	円台孔に鉄有
123	オ278	Y25	A2	4	鋸	×	—	5	13.5	24.8	30.4	跳弾か
124	オ820	Y202	A2	4	鋸	×	陶/灰	不明	14.0	27.0	26.9	
125	オ828	Y252	A2	4	鋸	×	—	5	14.0	32.0	22.9	
126	さ19	Y6	A2	4	鋸	○	陶/茶	5	13.4	31.0	27.1	
127	オ269	Y14	A2	4	鋸	×	—	不明	15.0	29.0	25.9	
128	オ822	Y204	A2	4	鋸	×	—	5	26.5	16.0	27.7	
129	オ273	Y19	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	27.0	17.0	28.3	
130	オ777	Y192	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	28.0	16.5	29.0	新しい傷有
131	シ449	Y124	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	28.0	14.0	27.9	
132	オ297	Y166	A2	4	鋸	×	—	不明	27.0	15.2	27.9	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
133	シ443	Y118	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	26.5	14.0	29.7	
134	シ437	Y112	A2	4	鋸	○	陶/灰	不明	27.5	17.0	29.4	
135	シ419	Y47	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	25.5	15.5	28.5	
136	オ277	Y24	A2	4	鋸	×	—	5	25.4	16.4	28.0	
137	オ757	Y84	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	19.0	28.5	
138	オ745	Y69	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	17.0	27.9	
139	オ299	Y168	A2	4	鋸	×	—	不明	20.4	23.6	28.2	
140	シ458	Y133	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	19.0	23.0	27.2	
141	シ385	Y173	A2	4	鋸	○	—	不明	19.0	24.0	27.8	
142	オ771	Y106	A2	4	鋸	○	—	5	25.0	17.0	28.2	
143	シ460	Y135	A2	4	鋸	×	—	5	26.0	20.0	27.7	
144	さ2	Y2	A2	4	鋸	×	—	不明	21.0	17.0	28.7	
145	オ761	Y91	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	18.5	28.3	
146	オ764	Y94	A2	4	鋸	○	—	5	26.0	16.5	28.3	
147	さ21	Y12	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	28.0	15.0	28.5	
148	オ821	Y203	A2	4	鋸	×	—	不明	29.5	18.0	28.4	
149	オ280	Y149	A2	4	鋸	○	—	5	26.2	19.5	28.9	
150	オ265	Y9	A2	4	鋸	×	—	不明	26.2	18.6	28.0	
151	オ782	Y197	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	33.0	24.0	27.6	
152	シ435	Y109	A2	4	鋸	×	—	5	27.0	17.0	28.6	
153	シ387	Y175	A2	4	鋸	×	—	5	30.0	22.0	28.1	
154	オ288	Y157	A2	4	鋸	×	—	不明	26.3	16.7	29.7	
155	オ295	Y164	A2	4	鋸	×	—	不明	28.9	19.3	27.6	
156	オ830	Y254	A2	4	鋸	×	—	5	22.5	19.5	28.0	
157	さ28	Y50	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	22.0	22.5	28.1	
158	オ302	Y171	A2	4	鋸	×	—	5	25.0	20.6	30.2	
159	オ275	Y21	A2	4	鋸	×	—	不明	17.0	25.5	27.8	
160	オ366	Y172	A2	4	鋸	×	—	不明	25.0	20.8	28.2	
161	さ44	Y96	A2	4	鋸	○	—	不明	23.0	19.5	29.7	
162	シ428	Y57	A2	2	鋸	×	—	不明	21.5	18.0	26.0	
163	さ40	Y75	A2	4	鋸	×	—	5	22.0	20.0	29.0	
164	オ770	Y104	A2	4	鋸	×	—	5	15.5	22.0	20.3	
165	シ451	Y126	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	28.0	27.0	26.4	
166	さ45	Y97	A2	4	鋸	○	—	5	19.0	21.3	25.1	
167	シ470	Y145	B	4	鋸	×	—	5	26.5	14.0	29.7	
168	シ434	Y67	B	4	鋸	×	—	5	24.5	14.5	28.2	
169	オ286	Y155	B	4	鋸	×	—	5	25.3	14.8	28.3	
170	シ413	Y39	B	4	鋸	×	—	5	27.0	14.5	28.3	
171	シ416	Y44	B	4	鋸	×	—	5	25.5	14.8	28.9	
172	シ389	Y177	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.5	28.7	
173	オ778	Y193	B	4	鋸	×	陶/茶	5	24.0	15.0	29.7	陶栓外れる
174	オ819	Y201	B	4	鋸	×	陶/茶	5	25.0	15.0	29.8	
175	シ438	Y113	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.0	14.5	29.4	
176	オ292	Y161	B	4	鋸	×	陶/灰	5	25.0	14.8	28.5	
177	オ276	Y23	B	4	鋸	×	陶/茶	5	24.1	14.8	28.6	
178	オ262	Y3	B	4	鋸	×	陶/茶	5	26.4	14.6	29.2	
179	シ461	Y136	B	4	鋸	×	木	5	26.5	15.0	29.0	木栓外れる
180	シ422	Y51	B	4	鋸	×	—	5	27.5	16.5	27.1	
181	さ26	Y40	B	4	鋸	×	—	5	27.0	15.0	27.1	
182	オ758	Y85	B	4	鋸	○	—	5	25.0	15.0	29.2	
183	オ825	Y207	B	4	鋸	×	—	5	23.0	17.0	29.5	
184	シ445	Y120	B	4	鋸	×	—	5	24.0	15.0	27.8	
185	オ301	Y170	B	4	鋸	×	陶/茶	5	28.0	15.0	29.5	
186	シ408	Y33	B	4	鋸	○	—	5	27.0	16.0	28.6	
187	オ783	Y198	B	4	鋸	○	—	5	26.5	15.0	29.6	
188	オ826	Y208	B	4	鋸	×	—	5	25.0	16.0	27.7	
189	シ466	Y141	B	4	鋸	○	陶/茶	5	24.0	19.0	29.8	
190	シ411	Y36	B	4	鋸	×	陶/茶	5	17.0	21.0	28.2	
191	さ27	Y41	B	4	鋸	×	—	5	18.0	19.0	28.3	
192	シ393	Y181	B	4	鋸	×	—	不明	16.0	24.0	23.7	
193	さ30	Y28	B	4	鋸	×	—	不明	32.0	17.0	28.1	
194	オ296	Y165	B	4	鋸	×	—	不明	25.6	19.6	28.3	
195	オ833	Y257	B	4	鋸	×	—	不明	34.0	32.0	26.6	
196	オ780	Y195	B	4	鋸	×	—	不明	28.0	22.5	29.2	
197	オ300	Y169	B	4	鋸	×	—	不明	26.8	22.0	26.6	

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	圏溝			栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目			全長	最大径	重さ	
198	さ22	Y17	B	4	鋸	×	—	5	29.0	19.6	25.9	
199	シ415	Y43	B	4	鋸	○	—	5	15.0	26.5	29.0	
200	サ824	Y206	B	4	鋸	×	—	不明	25.0	29.0	18.7	
201	シ454	Y129	B	4	鋸	○	—	不明	28.0	26.0	29.9	
202	サ781	Y196	B	4	鋸	○	—	不明	20.8	39.0	13.1	
203	シ427	Y56	小片	4	—	○	—	不明	15.0	27.0	15.2	
204	サ779	Y194	小片	2	—	—	—	不明	20.0	25.0	6.2	
205	サ759	Y89	小片	3	—	—	—	不明	15.0	20.2	6.3	
206	シ456	Y131	小片	4	—	—	—	不明	24.0	17.3	6.2	
207	シ421	Y49	小片	4	—	—	—	不明	22.2	18.0	8.2	
208	シ433	Y65	小片	—	—	—	—	不明	17.5	20.0	5.9	
209	シ457	Y132	小片	—	—	—	—	不明	16.0	10.8	2.8	

エンフィールド銃弾 (第163図・167図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	分類	栓 材/色	腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
						全長	最大径	重さ	
24	さ33	Y263	b1	—	不明	18.0	19.0	31.4	3T
211	う395	Y183	a2	木	不明	27.0	14.5	34.1	鋳型造縦溝有り, キャスト弾, 中高タイプ(鉛不足), 木栓外れる
212	さ29	Y7	a2	—	不明	26.0	15.0	35.3	キャスト弾, 中高タイプ(鉛不足)
213	サ823	Y205	b1	木	不明	27.0	14.5	32.7	木栓外れる
214	さ31	Y95	b1	—	5	26.5	14.5	32.4	刻印有 ⊕
215	う400	Y188	b1	木	不明	27.0	18.0	31.6	
216	さ32	Y111	b1	—	不明	25.0	21.0	25.5	

その他の銃弾・不明小片・欠番 (第164図・第167図)

挿図 No.	実測 No.	種類	取上 No.	圏溝			腔綫 条	計測値(mm/g)			備考
				数	形	刻目		全長	最大径	重さ	
64	シ395	不明小片	Y229	—	—	不明	8.0	20.0	1.9	5T	
77	シ398	不明小片	Y238	—	—	不明	12.5	15.6	2.8	6T	
210	サ838	不明小片	Y262	—	—	不明	21.5	8.5	4.1		
217	シ455	小径銃弾	Y130	4	鋸	5	29.0	13.5	29.6	元はスナイドル銃弾, A2	
218	さ37	小径銃弾	Y66	2	鋸	不明	26.7	15.4	26.3	元はスナイドル銃弾, B	
219	さ33	ウエストリチャーズ銃弾	Y88	—	—	4	35.0	9.0	20.1	細長い	
	欠番	—	Y87	鉄製品B21へ変更							

砲弾 (第157図上・第163図・第164図・第168図・第169図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値(mm/g)			備考
				縦	横	重さ						縦	横	重さ	
11	さ545	BL35	筈翼	20.5	20.0	10.9	2T	12	さ437	BL11	胴部	67.0	63.0	298.5	
12	さ546	BL36	筈翼	19.0	18.2	10.0	2T	13	さ532	BL14	胴部	61.5	28.0	119.5	
13	さ20	BL33	上部	91.5	60.0	351.5	2T	14	さ441	BL28	胴部	50.0	47.0	142.0	
14	さ22	BL34	上部	7.2	51.5	22.8	2T	15	さ435	BL4	底部	84.5	83.4	653.5	底部完存
25	さ26	BL37	胴部	54.0	42.0	141.5	3T	16	さ530	BL9	胴部	49.5	31.0	119.0	
65	中1	BL38	筈翼	17.6	17.3	9.4	5T	17	さ550	BL27	胴部	49.5	30.0	81.9	
79	さ46	BL39	上部	37.0	31.0	56.8	6T	18	さ533	BL16	胴部	33.0	27.0	46.5	
86	さ547	BL40	細片	35.0	12.0	13.4	11T	19	さ537	BL43	胴部	38.0	12.0	16.6	
87	サ1318	BL42	霰弾子	15.5	13.8	15.5	11T	20	さ528	BL2	底部	39.0	18.5	27.6	
88	サ1317	BL41	霰弾子	12.2	11.2	7.5	11T	21	さ438	BL13	底部	88.0	86.0	498.5	
91	さ548	BL21	上部	83.0	54.0	283.5	21T	22	さ443	BL8	筈翼	17.5	16.5	9.7	
1	さ439	BL15	上部	83.0	48.0	320.5		23	さ448	BL29	筈翼	20.0	18.2	9.7	
2	さ436	BL6	上部	82.0	47.0	266.5		24	さ447	BL24	筈翼	18.8	16.6	10.7	
3	さ440	BL17	上部	79.0	44.0	314.5		25	さ442	BL7	筈翼	20.6	17.5	9.5	
4	さ536	BL31	上部	36.0	12.0	19.6		26	さ525	BL1	胴部	46.0	22.0	43.3	榴霰弾
5	さ535	BL26	細片	20.0	16.0	7.6		27	さ551	BL32	胴部	49.0	22.0	60.0	榴霰弾
6	さ53	BL25	上部	72.0	45.0	194.5		28	さ529	BL3	底部	42.5	36.0	43.4	榴霰弾
7	さ526	BL12	上部	26.0	18.0	19.6		29	さ446	BL20	霰弾子	15.0	14.0	17.0	
8	さ531	BL10	上部	24.0	21.5	26.4		30	さ444	BL18	霰弾子	15.0	14.0	16.9	
9	さ549	BL23	上部	24.5	19.0	18.4		31	さ445	BL19	霰弾子	15.2	14.0	17.0	
10	さ527	BL5	胴部	48.5	28.0	76.0		32	サ1119	表採	霰弾子	14.4	13.7	15.0	六角堂付近
11	さ534	BL22	胴部	46.0	37.0	96.0			欠番	BL30	その他 G28へ変更				

鉄製品 (第169図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考
1	サ1657	B4	小刀	(262)	93.0	茎60mm	3	サ1662	B3	ネジ釘	(36)	3.6	
2	サ1671	B12	切先	(50)	9.4		4	サ1663	B9	ネジ釘	(15)	1.2	

1号土坑出土の鉄製品 (第 157 図下)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考
3	す1661	B24	頭巻釘	(29)	1.2	

1号土坑出土の釦 (第 157 図下)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値		挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値	
				長さ※mm, (残存長) / 重さ※g						長さ※mm, (残存長) / 重さ※g	
1	さ24	G20	ガラス製釦	外径11.1, 厚3.2 / 重さ0.5		2	中2	G21	金釦裏蓋	復元径約23, 輪足径5.6 / 重さ1.0	

2T 出土の釦 (第 163 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値	
				長さ※mm, (残存長) / 重さ※g	
15	さ25	G22	銅製釦	外径19.5, 厚(7.3) / 重さ0.8	

20T 出土の鉄製品 (第 164 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考
90	す1666	B34	楔	77	32.0	

その他の遺物—鉄製品 (第 170 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考(mm)	挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	長さ※mm (残存長)	重さ※g	備考(mm)
1	す1659	B7	駄載環	76	175.5	縦57	7	す1672	B17	刀子	(41)	4.7	
2	す1658	B1	駄載環	42	41.7	幅43	8	す1670	B2	刀子	(40)	3.2	
3	す1660	B15	駄載環	44	43.1	幅45	9	す1667	B8	不明鉄製品	156	121.5	円孔6
4	す1655	B11	蹄鉄	106	132.5	幅113	10	中23	B25	不明鉄製品	48	15.0	6T, 縦19円孔6
5	す1656	B14	蹄鉄	112	241.5	幅107	11	す1673	B20	不明鉄製品	(39)	2.9	幅16
6	す1669	B13	楔	(46)	61.2		12	す1668	B10	不明鉄製品	(51)	56.2	

その他の遺物—銭貨 (第 170 図)

挿図 No.	取上 No.	拓本 No.	銭種	年銘・初鋳年	計測値(mm)	備考
13	BR6	う542	竜半銭銅貨	明治10年	直径22.0 厚さ1.1	龍文は波ウロコ
14	BR3	う539	竜1銭銅貨	明治16年	直径27.7 厚さ1.4	
15	BR4	う540	桐1銭青銅貨	大正9年	直径23.0 厚さ1.2	
16	BR7	う595	10銭錫貨	昭和19年	直径19.0 厚さ1.7	1T
17	BR5	う541	稲10銭アルミ貨	昭和20年	直径22.2 厚さ1.4	

その他の遺物—土器・陶磁器類 (第 171 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	焼成形態	器種	口径	底径	器高	備考
					※cm,	()内復元値		
18	す1304	GR22	土師器	小皿	(8.5)	(6.9)	1.4	1T出土 12c中頃～13c前半 外：磨耗 内：口縁～体部回転ナデ，底部広い静止ナデ
19	ひ162	—	瓦質土器	播鉢	—	—	—	3T出土 土師質(内面炭素吸着) 14c～17c前半 外：口縁部横ナデ・片口部脇ユビ押え
20	ひ164	—	陶器	鉢	—	—	—	7T出土 肥前 17c後半～18c前半 内外：口縁～体部上位白土刷毛塗り・透明釉
21	ひ173	—	陶器	播鉢	—	—	—	20T出土 肥前 17c中頃～後半 内面摩滅(特に底部外周)
22	ひ167	—	陶器	小碗	(7.2)	—	—	19T出土 九州産 19c 施釉：内外とも口縁部銅緑釉，体部透明釉(細かい貫入)
23	ひ168	—	磁器染付	碗	(10.6)	—	—	19T出土 肥前系 18c末～19c中頃 文様：草花文?
24	ひ165	GR34	磁器染付	小丸碗	5.9	(3.5)	5.0	11T出土 25と同一個体? 肥前系 19c後半 文様：化学コバルト，蝶2頭(主文部欠)
25	ひ160	—	磁器染付	小丸碗	(5.8)	—	—	2T出土 24と同一個体? 肥前系 19c後半 文様：化学コバルト，草花
26	ひ163	—	磁器染付	小碗	(6.1)	(2.8)	5.1	3T出土 網田焼? 19c後半 胎土：黄ばむ 文様：化学コバルト，菖蒲
27	ひ175	GR1	磁器染付	湯呑碗	(8.2)	—	—	肥前系 19c後半 文様：化学コバルト，外…海浜風景(縦線区画)，内…四方樺
28	ひ166	—	磁器染付	小皿	(9.0)	(3.6)	2.0	19T出土 肥前系 19c初頭～中頃 文様：発色暗い，花・蝶 施釉：内底蛇の目釉剥ぎ
29	ひ169	—	陶器	皿	—	—	—	19T出土 内野山窯 18c末～19c中頃 外：上位透明釉 内：白土刷毛塗り・透明釉
30	ひ159	GR29	磁器染付	角皿	—	—	4.7	1T出土 肥前系 19c後半 文様：化学コバルト，内…花・雷・馬の目状，外…遠山?
31	ひ171	—	陶器	土瓶	(7.1)	—	—	20T出土 肥前 18c末～19c中頃 外：白土塗り 内：底部白土斑・透明釉
32	ひ170	—	陶器	壺	10.7	—	—	19T出土 産地不明(国産) 19c 施釉：内外褐釉 胎土：淡灰色，硬い
33	ひ172	—	陶器	壺	(7.4)	—	—	20T出土 九州産 19c 外：黒釉，疊付釉剥ぎ・砂付着 内：鉄漿?，窯内浮遊滓付着
34	ひ161	—	土師質土器	角火鉢	—	—	—	2T出土 19c 板作り 外：ナデ 内：横ナデ 胎土：金雲母微粒多い

その他の遺物—銅製品ほか (第 171 図)

挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値		挿図 No.	実測 No.	取上 No.	品名	計測値	
				長さ※mm, (残存長) / 重さ※g						長さ※mm, (残存長) / 重さ※g	
35	さ449	G28	鉛弾	径8.6 / 重さ3.5		38	す1305	G19	芥子面(虚無僧)	1T出土 平面40×18, 厚11 / —	
36	※火縄銃1号銃弾か，旧BL30					39	す1306	G27	芥子面 (はなたれ小僧様)	3T出土 平面28×18, 厚6 / —	
	ひ177	G8	銅製襟章	平面31×19, 高6 / 重さ4.4							
37	※陸上自衛隊or 航空自衛隊の二曹襟章，2本線黒彩					40	ひ176	G4	硝子瓶	銅製口縁復元径28 / —	
	ひ178	G16	銅製ロケット	見開き幅23.3, 高1.3 / 重さ1.5							
										※硝子瓶(明青色・気泡多)の口縁部を意図的に欠き銅製口縁を装着	